

＜令和２年度 文化庁補助事業（地域文化遺産・情報コンテンツ作成事業）＞

京都 近現代建造物(1941～1973 年)
資料リストアップ並びに精選物件(建築)報告書

令和３年３月３０日

公益社団法人 日本建築家協会 J I A 文化財修復塾(京都担当)

目 次

1. 事業の目的と内容	1
2. 事業の進め方（方法）	2～ 3
3. 京都・事業総括チームメンバーによる資料収集と現地取材	4
4. 調査結果とその傾向／矢ヶ崎善太郎（大阪電気通信大学）	5～ 6
5. 一次資料リスト	7～16
6. 二次資料リスト	17
7. 京都 近現代建造物現地取材リスト	
・ ウェスティン都ホテル京都 数寄屋風別館「佳水園」	18～20
・ 四君子苑	21～23
・ 北村邸	24～26
・ 京都タワー	27～29
・ 桂カトリック教会	30～32
・ 泉屋博古館	33～35
・ 京都信用金庫 円町支店・修学院支店	36～39
8. 資料：現地取材依頼書	40

1. 事業の目的と内容

事業の名称

J I A文化財修復塾事業 <令和2年度 文化庁補助事業 地域文化遺産・情報コンテンツ作成事業>
資料リストアップ並びに精選物件(建築)

事業に係る建造物

京都(主に市内)の近現代建造物(1941年～2000年)のうち1973年まで [令和2年度分]

事業の目的

日本の戦後の近現代建造物は国際的にも高く評価されているようだが、周囲を見廻しても既にかなり前から急速に失われていく危機的状況にある。日本のモダニズム建築の盛期とされる60年代～70年代を牽引した建築家達も殆ど逝去された。(近現代建造物の重要文化財指定は未だ4件しかない) 重文以上の優品指定の進みにくさの要因は、戦後の建築物について①総括的把握がなされていないこと、②評価基準が充分でないこと、③指定されると改修が難しくなる事等の要因があげられる。(③対策として、平成8年文化財登録制度が発足)

そこで国(文化庁)も平成28年度から1年おきに2府県ずつ選び「近現代建造物緊急重点調査事業」を実施中である。(調査対象は1945年から2000年) 京都は未だ、何年度に対象となるか未定である。そうした現状に鑑み、優品の減失化を防ぐ為にも、後世に保存・継承される価値があるものを世に知らしめる為にも、又 文化的価値の高い観光振興の為にも総括的なコンテンツ収集に早く着手しその真価を記録としても遺し発信して行きたい。そのような強い思いから我々京都の有志(1名は大阪)建築家チームが事業着手に立ち上った。

事業の内容(情報コンテンツ作成事業 文化財情報発信推進事業)

京都市内を中心とした京都府下の近現代建造物の資料収集(一次資料リストアップ)並びに精選整理物件のリストアップ(二次資料)及び現地取材を行い、報告書にまとめる。成果物の報告書(A4版、約40ページ)は以下2つの方法で公開・発信する。

①デジタル版: JIA文化財修復塾ホームページ上に公開し情報発信する。

http://www.jia.or.jp/activity/cultural_property_repair/

②冊子版: A4版50部作成(写真ページはカラー刷)し、以下の方々へ送付する。

- ・文化庁、京都市並びに京都府文化財保護課
- ・国立国会図書館、京都市内並びに六大都市主要図書館(計31館)
- ・本事業に協力頂いた現地取材建築所有者又は管理者等

今年度のデータは1941年～1973年までを対象とし、一次資料リスト(約220件)及び精選整理された二次資料リスト(12件)及び現地取材リスト(8件)を作成

なお令和3年度～令和5年度に以下の継続事業を予定

- ・令和3年度…1974年～1985年を対象とし、令和2年度同様にデータを作成
- ・令和4年度…1986年～2000年を対象とし、引き続きデータを作成
- ・令和5年度…全期中からの精選整理物件を更に総括し、最終精選物件の展示パネル作成と
展示会並びにシンポジウムを公的会場で実施。報告書も同様に作成。

2. 事業の進め方（方法）

資料リストアップと現地取材方法

本事業は、前述の如く当 京都において合計4年間の継続事業として実施する予定である。取組方法は、文化庁による平成28～29年度委託事業「近現代建造物緊急重点調査（建築）」奈良編及び神奈川編報告書の内容を基に行うこととし、初年度にあたる令和2年度の事業は、一次資料リストアップ、二次資料リストアップ、現地取材（二次資料リストアップ中の一部実施）の3段階に分けて行い、2年度目にあたる令和3年度及び令和4年度の作業は、前年度の結果を踏まえ、一次及び二次資料リストの追加と精査、現地取材を行うとともに、その結果を年度毎報告書にまとめる。各段階の作業方法は以下を基本とする。

1) 一次資料リストアップの進め方

一次資料リストアップでは、府内に残る1941年以降の近現代建築（1941年～2000年）の網羅的リストを諸建築関係文献から作成する。作業の進め方は、文化庁による平成27年度調査の府県別暫定リスト（『総覧・日本の建築』＋「未来に残したい20世紀の建築」の戦後建築リスト）をベースに、京都地域の建築ガイドブックや建築雑誌類（「新建築」誌、日本建築協会の「建築と社会」誌、「京都府近代和風建築報告書」）、受賞作品リストなど、何らかの形で既に記録された建築リストを蒐集し、次にそれ以外の作品でチームメンバーが「記憶に残る建築」と判断し推薦する建築をリストに加え、その上でこれらの建築に関する基礎情報（竣工年、建物名称、存否、所在地、設計者、施工者、構造諸元、受賞歴、出典）を調べることにした。なお、推薦にあたっての「精選」の判断基準は、学会意匠部会による7項目の評価基準（①革新性、②意匠性、③作家性、④技術性、⑤時代性、⑥地域性、⑦継続性）の少なくとも一つに値することを条件とし、その判断はチームメンバーの推薦をもとに今回の事業チームの協議で決定することとした。

基礎情報の蒐集は、現地に赴かず主にインターネットや図書館の建築関係雑誌を用いて行い、正確性を期する為できるだけ複数の情報を集めることにした。「建物名称」、「所在地」などの情報は、市町村合併や所有者変更などにより既存リストの作成時から変更されている場合があるが、一次資料リストアップでは建物の存否確認を必須とするため、リストでは現在の所在地や名称を優先した。また、「設計者」や「竣工年」は暫定リストや既存リスト、雑誌・刊行本を参照し、その出典を明記することとした。それ以外の推薦建物については、インターネットや雑誌情報を用いて調べる（その際はサイトのアドレスを出典として記載）ことにした。なお、滅失が確認された建物については、リストから削除するのではなく、存否情報の欄に×を記すことにした。

2) 二次資料リストアップの進め方

二次資料リストアップでは、一次資料リストの中からより「価値の高い」と判断したものを事業チームで選定し、二次資料リストアップの対象とした。「高い価値」の判断基準は、7項目の評価基準の一つ以上が顕著であることを条件に、事業チーム会議で議論し、選出した。

二次資料リストアップは資料収集と現地取材からなり、資料収集では主に建築関係雑誌や刊行本を用いて建物の竣工時の詳細情報を収集し、現地取材では現状の確認と写真撮影、ヒアリングによる改修履歴や現地所蔵資料の有無などを確認することとした。また、500～900字程度の所見と7つの評価基準の適用を別途作成することとし、建築概要と共に報告書にまとめ掲載することとした。

なお、既に国や各府県の文化財に指定、登録されているものやドコモ選定作品については、すでに所見（評価書）が存在するが、二次資料リストアップの対象からはずさなかった。又 現地取材物件写真は原則的には取材時担当者が撮影したものを、A4 版 2 枚分 12～16 枚程度簡潔な説明付で紹介した。

3) 現地取材の進め方

現地取材の進め方は、事前に建物の所有者または管理者に取材協力の依頼を電話、メール又は訪問等で行い、用意した「取材依頼状」を先方に提出するなどして取材の主旨を事前に説明し、承諾を得られた相手から優先的に行った。現地取材は、必ず複数のメンバー（6 人以下）で行った。

4) 報告書のまとめ方

今年度は、1941 年から 1973 年までの一次資料リスト及び二次資料リストと現地取材物件の建築概要、所見及び評価基準の適用結果をまとめたシートを報告書に収録した。

作業分担は、各チームメンバーが手分けして一次資料リストに上げる物件を収集担当し、二次資料リストの作成は会議で決定。現地取材も各々担当責任者を決めて、担当者毎に建築概要、所見、評価書を作成した。又 各担当取材先に校正原稿の了承を得た上、それを成果品とした。作業終盤、大学教員で建築史、庭園史の研究者・矢ヶ崎善太郎氏（大阪電気通信大学教授）に全体を総覧しての一文を依頼した。

5) 事業総括チームメンバー

長瀬博一（事業申請者、日本建築家協会 JIA 文化財修復塾 副塾長、(有)長瀬建築研究所）

岡田良子（Space Clip）、加藤正浩（KATO 建築研究所）、菅澤茂（環境文化保存計画菅澤 1 級建築士事務所）、津島利章（空和建築研究所）、百合野耕治（㈱大建設大阪事務所）

以上 6 名

6) 成果品送付先一覧（計 40）

○行政

- ・文化庁
- ・京都市文化財保護課
- ・京都府文化財保護課

○国立図書館

- ・国立国会図書館本館
- ・国立国会図書館関西館

○都道府県立図書館(六大都市)

- ・東京都立中央図書館
- ・愛知県図書館
- ・大阪府立中之島図書館
- ・東京都立多摩図書館
- ・京都府立図書館
- ・兵庫県立図書館
- ・神奈川県立図書館
- ・京都府立京都学・歴彩館
- ・兵庫県立こどもの館
- ・神奈川県立川崎図書館
- ・大阪府立中央図書館

○京都市立図書館

- ・京都市中央図書館
- ・京都市東山図書館
- ・京都市洛西図書館
- ・京都市右京中央図書館
- ・京都市山科図書館
- ・京都市向島図書館
- ・京都市伏見中央図書館
- ・京都市下京図書館
- ・京都市醍醐図書館
- ・京都市南図書館
- ・京都市深草図書館
- ・京都市醍醐中央図書館
- ・京都市吉祥院図書館
- ・京都市北図書館
- ・京都市久世ふれあいセンター図書館
- ・京都市左京図書館
- ・京都市西京図書館
- ・京都市岩倉図書館

○現地取材協力者

- ・ウェスティン都ホテル京都
- ・京阪ホテルズ&リゾーツ株式会社
- ・泉屋博古館
- ・北村美術館
- ・桂カトリック教会
- ・京都信用金庫本店、円町支店

3. 京都・事業総括チームメンバーによる資料収集と現地取材

長瀬博一（JIA 文化財修復塾 副塾長）

京都の事業総括メンバーは、全員京都市文化財マネジャーないし JIA 文化財修復塾の修了生で、6 名中 5 名は日本建築協会会員でもあり、日本建築家協会、京都府建築士会所属は各 3 名である。

一次リストの作成にあたっては、建築学会の刊行本「総覧 日本の建築—京都・滋賀」や、「総覧 日本の建築+未刊行」+JIA 未来に残したい 20 世紀の建築」の京都分 75 件を基にチームメンバー各位で手分けして戦中～戦後建築リストを作成することとした。その際、主に 100 年以上の歴史を持つ日本建築協会の機関誌「建築と社会」コンテンツと 76 年の歴史ある「新建築」誌並びに「京都府近現代和風建築調査報告書」から年限的に抽出収集を行った。1941 年から 2000 年までの現時点収集総数は当初の予想をはるかに超え約 600 件に達した為、大要、年限的に前期、中期、後期と三分して令和 2 年度は 1941 年～1973 年まで（前期、約 220 件）、令和 3 年度は 1973～1985 年まで（中期）、令和 4 年度は 1985～2000 年まで（後期）とする。なお令和 5 年度は総括、展示会、シンポジウムの開催を予定している事は既述のとおりである。

二次資料リストの選定に際しては、京都市内の地域、公共と民間、用途等のバランス、京都の特性を配慮すると共に、評価基準も踏まえて判断することとした。作業期間の関係で、遠方の京都府下は来年度に検討することとした。令和 2 年度には事業メンバーの協議により一次リスト約 220 件から二次資料リストとして 12 物件を選出した。その内、コロナ禍の中限られた期間中に取材に応じてもらえた 8 物件を選出した。（令和 3 年度においては、前年度に現地取材出来なかった 4 物件を含む取材となる予定）

（注）一次リストの細部情報の未記載部分は来年度に補填予定

8 物件については、事前に所有者等に事業の趣旨説明を行い了解を得られ、無事現地取材が実施出来た。その際、所有者等から図面の提示や改修履歴等並びに文献や雑誌等への掲載についても聞き取り、施設内外の写真の撮影を行った。この間、現地での五感による建築の現寸体験の大切さと充実感を一同改めて痛感した。

これらを踏まえ、事業チームにおいて物件の建築概要、所見、評価基準、写真の整理と説明書きを完成した。事業も終盤に差し掛かった段階で、特に近代建築、近代和風建築や庭園史に詳しい矢ヶ崎善太郎教授（大阪電気通信大学教授、元 京都工芸繊維大学准教授）に成果品の総覧と事業全体を総括しての一文を依頼した。

今年度は、パンデミックによる異状事態下、令和 2 年春から三密と移動を禁じられ、本格的作業に容易に取りかかれない状態が長く続いた。そうした結果、作業時間の大幅減少の為 10 月に当初計画の方針を変えざるを得ない「変更申請」を提出。文化庁並びに京都市文化財保護課による再審査の結果、本年 2 月 15 日付で再許可がおりて参加者全員本業（建築設計監理）もある中、皆全力で本事業の作業に取り組み成果をまとめ上げた。押し詰まった日程の中、現地取材を快諾いただいた各建築主、管理者等関係者には深く謝意を表したい。

4. 調査結果とその傾向

矢ヶ崎善太郎（大阪電気通信大学）

京都の近・現代建造物の調査を行うにあたって、既存の調査結果や刊行物などから建造物を抽出する方法で行われた一次調査リストの作成で、戦中から 2000 年までの間に建設された該当建築数が 600 件に達したことは予想外であった。その多くが京都市を中心とした地域に所在するものであったのは当然といえようが、調査結果は古代から日本の建築活動の中心地として栄えた京都市を中心にして、各時代の建築技術が重層的に積み重ねられており、優れた建築をうみ出す社会環境は京都府下隅々にまで及んでいることも示していた。そのような社会環境のなかで確かな建築技術と優れた建築を見る市民の「目」が涵養され、京都独特の建築文化が形成されてきたのである。

歴史都市としての印象が強い京都では近世までの伝統建築の存在に目が向きがちであるが、その伝統の上にたつて、近代以降も引き続いて良質な建築の生産が継承されており、明治以降独特の発展をたどってきた京都は、その量や質、そして多様さにおいて近代建築の宝庫であるといってもよい。その傾向は、従来の建築史で「近代」と位置付けられてきた戦前までの期間を超えて、戦後から現代にいたるまで良好に継承されていたのである。

膨大なデータ数を前にして、調査を数年に分けて継続する必要性が生じ、令和 2 年度は便宜的に戦中から 1973 年までに建設された建造物を対象に報告書を作成することになった。本報告書では一次資料リストから調査メンバーの判断のもと、「評価の高い」8 件について調査が追加され、詳細な報告がなされている。数多く存在しているはずの「評価の高い」建造物を 8 件に限定したことは、時代性を総括するうえで決して十分な数だとはいえないが、調査体制からしてこれが精いっぱい成果であったといえようし、これら 8 件の特徴は、おのずと京都という地域性を端的に表している。

近代という時代は日本の木造建築技術が最高潮に達した時代であった。その技術は寺社や数寄屋など多様な建築に発揮され、京都にはその時代性を象徴する建築が数多く存在しているが、なかでもそれまで大工の創造力の賜物であった数寄屋の建築生産に建築家が介入しはじめ、建築家が数寄屋を「設計」する時代になって、そこでは必然的に建築の質の変化が起こった。北村邸の四君子苑や主屋、ウェスティン都ホテルの佳水園にはその傾向が端的に表れており、まさに数寄屋の近代を象徴する建造物であるといえよう。

数寄屋に関わらず、近代に活躍した東西の建築家にとって、京都という土地で建築をつくるには特異な覚悟が必要であったと想像される。そうであるがゆえに、のちに高く評価される建築が建築家たちによって多く創造されてきたのである。先述の数寄屋をつくった吉田五十八や村野藤吾のかかわりや、分離派建築界の旗手であった山田守やメタボリズムの提案で時代をリードした菊竹清訓の存在は、近・現代の京都の建築界に独特な個性を付与してくれた。いずれも伝統を意識し、伝統を再評価しながら、素材や空間の質、あるいはテクノロジーの面においてそれまでにはなかった進取の道を切り開き、あらた

な伝統の萌芽を意識した積極的で挑戦的な建築であるといえよう。京都タワーの応力外皮構造や京都信用金庫支店のアンブレラ・ストラクチャーの提案は、形の魅力を超えて大いに評価されるべき提案だといえる。日建設計という組織建築事務所の名で設計された泉屋博古館は設計担当であった小角亨が京都で学んだ柔軟で鋭敏な感性があって始めて創出しえた建造物である。桂カトリック教会堂は当時流行しつつあった HP シェルによって実現できた大胆な空間が魅力であるが、設計者ジョージ・ナカシマのあたかも家具をつくるような目配りが細部にも向けられている。

本調査の結果から、伝統を意識せざるを得ない京都での建築活動において、伝統とは守り継承すべき威厳とともに、未来の創造力をかき立てる刺激でもあったことがわかる。伝統とは単に継承する対象ではなく、将来に対してどのような伝統を形成し提示すべきか、という冒険的な試みへの起爆剤にもなっていたのである。そこに多様な建築文化を生む京都らしい建築的土壌が形成されてきた、ということであらう。

京都には市民からの公募で今の京都を彩り、将来に残すべき文化財のリスト化が進んでいる。本報告書によってさらに建築家の目をもって優れた建造物の存在価値が加わることになる。次年度以降にも継続されるこの調査成果によって、古代から現代にいたるまでの、時代を超えた京都の建築文化の本質と全貌が明らかになる。

京都 近現代建造物 一次資料リスト

No.	存否 ○: 存 ×: 否 ?: 不明	竣工年月				建物名称	用途 13 分類	所在地	設計者	施工者	建築諸元			主な受賞歴等	掲載資料	掲載年月		備考	検索者	個別 番号
		西暦		和暦							構造	階数	延床			西暦				
		年	月	元号	年											年	月			
1	×	1941		昭和	16	中林仁一郎氏邸(比燕荘)	A	京都市伏見区深草	村野藤吾	清水組(中村外二)		2F			新建築	1983			o	o001
2	○	1940~ 1944		昭和	15~ 19	四君子苑	E	京都市上京区河原町今出川下ル東入梶井町448	北村謹次郎	北村捨次郎	W	1F	213㎡		京・数寄屋と茶庭 (四君子苑百景)				n	n077
3	○	1945		昭和	20	鞍馬寺奥院魔王殿	L	左京区鞍馬本町			W	1F			京都の近代和風	2009	7		t	t132
4	○	1945		昭和	20	何北中学校	K	綾部市物部町高倉前			W	2F			京都の近代和風	2009	7		t	t133
5		1941~ 1945		昭和	16~ 20	世界救世教平安郷春秋庵	L	右京区嵯峨広沢池下町			W	1F			京都の近代和風	2009	7		t	t151
6		1949		昭和	24	京都格致小学校建築工事	K								建築と社会	1949	9		y	y001
7		1949		昭和	24	京都祇園会館（改築）	F		白石博三・福田朝生	武内工務店					建築と社会	1949	8		y	y002
8		1949		昭和	24	京都女子大学	K		竹中工務店	竹中工務店					建築と社会	1949	8		y	y003
9		1949		昭和	24	立命館大学文学部校舎	K		内藤建築事務所	竹中工務店京都営業所					建築と社会	1949	8		y	y004
10		1950		昭和	25	京都市警察本部庁舎	I		京都市土木局営繕課・伊藤貞亮建築事務所	大和建設産業・ミラノ工務店					建築と社会	1950	9		y	y005
11		1950		昭和	25	京都市交通局病院附属療養所	J		京都市交通局工務課 日本ビルダース	日本ビルダース					建築と社会	1950	9		y	y006
12		1945		昭和	25	茶又旅館（再建）	F	舞鶴市字本			W	2F			京都の近代和風	2009	7		t	t134
13		1950		昭和	25	○家住宅	A	南丹市園部町			W	2F			京都の近代和風	2009	7		t	t135
14	×	1950		昭和	25	東八田幼稚園舎（旧東八田小学校舎）	K	綾部市上杉町洪市			W	2F			京都の近代和風	2009	7		t	t136
15		1951		昭和	26	子守神社 社務所	L	京丹波町大字富田			W	1F			京都の近代和風	2009	7		t	t137
16	×	1952		昭和	27	三和銀行京都支店	F	京都市下京区四条通烏丸西入ル	三和銀行建設課	大林組	SRC	5F			総覧日本の建築 建築と社会	1952 1953	2		n , y	n001 y008
17	○	1952		昭和	27	湯川記念館	K	京都市左京区北白川追分町	森田慶一 小川宏	ミラノ工務店	RC	3F,B1F			総覧日本の建築	1952			n , y	n002 y007
18		1952		昭和	27	速水家住宅「漁源居」	A	北区平野烏居前町			W	1F			京都の近代和風	2009	7		t	t138
19		1952		昭和	27	石清水八幡宮 社務所・書院	L	八幡市八幡高坊			W	2F			京都の近代和風	2009	7		t	t139
20		1952		昭和	27	大石酒造	F	亀岡市藉田野町佐伯垣内亦			W	2F			京都の近代和風	2009	7		t	t140
21		1952		昭和	27	長澤家住宅	A	亀岡市東別院町鎌倉笹畑			W	1F			京都の近代和風	2009	7		t	t141
22	×					京都駅	M	京都市下京区	國有鐵道施設局建築部	鐵道建築興業株式会社	RC	8F,B1F	10,071㎡		新建築	1952	8		k	k001
23	?	1953	12	昭和	28	大文字家の客室(改修)	A	京都市伏見区深草	初瀬川松太郎・富家宏泰	藤井組	W	2F			新建築	1953	3		o	o002
24		1953		昭和	28	京都市日吉ヶ岡高等学校	K	京都市東山区泉涌寺 山の内町	工学博士堀口捨己	横田租	RC	4F	1,775㎡		建築と社会	1953	9		y	y011
25		1953		昭和	28	京都地方検察庁庁舎	I		建設省近畿地方建設局	大成建設					建築と社会	1953	9		y	y013
26		1953		昭和	28	京都府営住宅 嵯峨天竜寺団地	B								建築と社会	1953	9		y	y014
27		1953		昭和	28	京都府立医科大学総合講堂	K	京都市上京区河原町広小路	京都府建築部営繕課	松村組			1,507㎡		建築と社会	1953	9		y	y010
28		1953		昭和	28	八坂女紅場歌舞練場 -祇園新地甲部歌舞練場改装工事-	F		大成建設	大成建設					建築と社会	1953	9		y	y012
29		1953		昭和	28	徳岡家住宅	A	笠置町大字有市小字井手上			W	2F			京都の近代和風	2009	7		t	t142
30		1953		昭和	28	大本教弥勒殿	L	綾部市本宮町			S				京都の近代和風	2009	7		t	t143
31		1950~ 1953		昭和	25~ 28	カトリック丹波教会園部聖堂	L	南丹市園部町新町118			W	1F			京都の近代和風	2009	7		t	t152
32	?					F氏邸	A	京都市右京区太秦	彦谷邦一	かねわ工務店	W+RC	1F,B1F			新建築	1954	5		k	k002
33		1955		昭和	30	京都市五条保健所	J		京都市建設局営繕課	大京土建					建築と社会	1955	2		y	y016
34	○	1955		昭和	30	鹿苑寺金閣	L	京都市北区金閣寺町1		棟梁:木村明次郎	W	3F			総覧日本の建築	1955		昭和25年消失 復元建築	n , y	n003 y017
35	?					裏千家の新席	K	京都市	初瀬川松太郎		W	1F			新建築	1955	6		k	k003
36				昭和	30年頃	織悦（株） 高尾	A	右京区龍安寺池ノ下町			W	1F			京都の近代和風	2009	7		t	t153
37				昭和	30年頃	細谷家住宅	A	宇治田原町大字岩山小字辻出			W	2F			京都の近代和風	2009	7		t	t154
38	×	1956		昭和	31	裏千家茶道会館	E	京都市 上京区小川通り寺の内上る本法寺前町	茶道裏千家家元(施主)	竹中工務店 担当:中村四十三	W	2F	555㎡		建築と社会	1956	12		y	y020
39	×	1956		昭和	31	京都国立博物館倉庫	E		森田慶一						建築と社会	1956	1		y	y018
40		1956		昭和	31	日本専売公社京都病院本館	J		設計:山下寿郎設計事務所 監理:日本専売公社	浅沼組					建築と社会	1956	11		y	y019
41	?					H氏邸	A	京都市北区	彦谷邦一	かねわ工務店	W	2F	104㎡		新建築	1957	3		k	k004
42	×	1957		昭和	32	京都ガスビル	H	京都市中京区烏丸御池梅屋町358	安井建築設計事務所	大林組	RC	5F	4,474㎡			1957	9		y	y021
43	○	1957		昭和	32	嵯峨野(旧富田屋)	G	京都市右京区嵯峨天龍寺	村野藤吾	浪花組	W	2F			総覧日本の建築	1957			n , y	n004 y022

用途(13分類):A:独立住宅 B:集合住宅 C:交流施設 D:運動施設 E:文化施設 F:商業施設 G:宿泊施設 H:オフィス I:庁舎 J:医療施設 K:教育施設 L:宗教施設 M:産業施設

京都 近現代建造物 一次資料リスト

(2 / 5)

No.	存否: ○: 存 ×: 否 ?: 不明	竣工年月				建物名称	用途 13 分類	所在地	設計者	施工者	建築諸元			主な受賞歴等	掲載資料	掲載年月		備考	検索者	個別 番号
		西暦		和暦							構造	階数	延床			西暦				
		年	月	元号	年											年	月			
44		1957		昭和	32	金本家住宅	A	和束町大字石寺小字長尾			W	2F			京都の近代和風	2009	7		t	t144
45		1958		昭和	33	学校法人立命館大学広小路学舎	K		富家建築設計事務所	清水建設					建築と社会	1958	12		y	y024
46		1958		昭和	33	旅館文珠荘	G	宮津市天橋立	荒堀白歩	熊倉工務店					建築と社会	1958	12		y	y023
47		1959		昭和	34	住友ペークライト京都工場PC構造	M		横尾五郎						建築と社会	1959	2		y	y027
48		1959		昭和	34	京都中京税務署	I		設計:近畿地方建設局営繕部建築課 監理:近畿地方建設局京都営繕工事事務所	ミラノ工務店					建築と社会	1959	11		y	y026
49	×	1959		昭和	34	比叡山国際観光ホテル	G	京都市左京区修学院一乗寺病垂	円堂建築設計事務所/富家建築設計事務所	清水建設株式会社	RC	3F,B1F,P1F	5,556㎡		新建築 建築と社会	1959	11		k , y	k006 y028
50	○					洛翠荘:京都郵政共済会館	GC	京都・南禅寺	大阪郵政局建築部	藤木工務店		2F			新建築 建築と社会	1959 1960	12 1		k , y	k007 y029
51	○					妙心寺花園会館	GC	京都・花園	村野・森建築事務所	三和建設株式会社	RC	2F			新建築	1960	2		k	k008
52	?	1960	4	昭和	35	京都の○氏邸	A	京都府京都市上京区相国寺門前町	笹川季男・嶋村隆次	大成建設株式会社	RC	2F			新建築	1960	4		o	o003
53		1960		昭和	35	天橋立成相公園REST HOUSE	F		京大增田研究室	藤山工務店					建築と社会	1960	1		y	y035
54		1960		昭和	35	日本放射線高分子研究協会大阪研究所	K		京都大学工学部建築学教室増田研究室	鹿島建設					建築と社会	1960	2		y	y030
55		1960		昭和	35	東本願寺同朋会館	L		財団法人建築研究協会	東海興業					建築と社会	1960	2		y	y033
56		1960		昭和	35	城陽カンツリークラブハウス	D		渡辺建築事務所	清水建設					建築と社会	1960	3		y	y034
57	○	1960		昭和	35	坂記念館	K	京都市左京区吉田本町 京都大学内	設計:京都大学建築学教室増田研究室 構造:坂研究室	大林組	RC	2F	275㎡		建築と社会	1960	3		y	y031
58	○	1960		昭和	35	ウェスティン都ホテル京都 数寄屋風別館「佳水園」	G	京都市東山区栗田口華頂町1	村野森建築事務所	大林組	W+RC	2F,B1F	1,618㎡		新建築 総覧日本の建築 建築と社会	1961 1960 1961	6 6		k , n , y	k010 n006 y032
59	○	1960		昭和	35	京都会館	E	京都市左京区岡崎公園	前川國男建築設計事務所	大成建設	RC	2F		学会賞、BCS賞	総覧 日本の建築				n	n005
60		1960		昭和	35	久保家住宅	A	南山城村大字田山小字北又			W	1F			京都の近代和風	2009	7	幕末・昭和35年改造	t	t145
61	?					京都の○氏邸	A	京都	笹川季男・嶋村隆次	大成建設株式会社	RC	2F			新建築	1960	10		k	k009
62		1960		昭和	37	宝酒造KK伏見工場	M		清水建設	清水建設					建築と社会	1962	7		y	y045
63	○	1961	3	昭和	36	京都市下水処理場 ポンプ室	M	京都・上鳥羽	京大增田研究室	株式会社銭高組	RC	1F,B1F	1,545㎡		新建築 総覧 日本の建築 建築と社会	1961 1961	9 7		k , n , y	k011 n007 y040
64		1961	4	昭和	36	大谷婦人会館	L	京都市下京区諏訪町通六条下る	安井建築設計事務所	東海興業			3,507㎡		建築と社会	1961	8		y	y042
65		1961		昭和	36	株式会社京都新聞社	H		富家建設事務所	清水建設					建築と社会	1961	1		y	y036
66	×	1961		昭和	36	京都国際ホテル	G	京都・二条新川通り	吉村I順三段計事務所	清水建設	RC	10F,B2F,P4F			新建築 建築と社会	1962 1961	2 10		k , y	k012 y037
67	○	1961		昭和	36	京都中央郵便局	H		郵政大臣官房建築部	大林組					建築と社会	1961	11		y	y038
68		1961		昭和	36	京都ホテル	G		京都ホテル増改築設計室	竹中工務店					建築と社会	1961	6		y	y039
69		1961		昭和	36	小林家住宅	F	南丹市園部町穴人市場			W	2F			京都の近代和風	2009	7		t	t146
70	○					都ホテル新館	G	京都・東山	村野・森建築事務所	株式会社大林組	RC	8F			新建築	1961	4		k	k010
71		1962		昭和	37	宝酒造株式会社京都麦酒工場	M	京都市南区久世高田町3番地	清水建設	清水建設	SRC	2F	1,921㎡		建築と社会	1962	1		y	y044
72		1962		昭和	37	日本安全硝子株式会社京都工場	M		日建設計工務	銭高組					建築と社会	1962	9		y	y046
73		1962		昭和	37	蹴上浄水場本館	I	京都市東山区栗田口華頂町3	増田友也	鴻池組	RC	3F			総覧日本の建築	1962			n , y	n008 y048
74	○	1962		昭和	37	宮津市庁舎	I	宮津市柳縄手	設計連合 沖種郎	豊国建設	RC	4F			総覧日本の建築	1962			n , y	n009 y047
75		1961	9	昭和	37	宝酒造KK京都麦酒工場	M	京都市南区久世高田町3	清水建設	清水建設	SRC	6F	54,151㎡		建築と社会	1962	5		y	y049
77	?	1963	3	昭和	38	京大関電記念館	E	京都	関西電力臨時社屋建設担当室	竹中工務店	RC	4F,B1F	2,087㎡		新建築	1963	8		k	k013
78	○	1963	8	昭和	40	北村邸	A	京都市上京区駒之町561-4	吉田五十八	大林組	RC+W	2F,B1F	30,340㎡		新建築	1965	1		o , k	o007 k016
79	?	1963	10	昭和	38	山科の家	A	京都市左京区修学院	彦谷建築設計事務所	不二建設株式会社	RC	2F	224㎡		新建築	1963	10		o , k	o004 k014
80		1963		昭和	38	京都市体育館	D		富家建築設計事務所	戸田建設					建築と社会	1963	8		y	y051
81	○	1963		昭和	38	京都府立総合資料館	E		北野正志						建築と社会	1963	7		y	y050
82		1963		昭和	38	今井家住宅	A	笠置町大字有市小字平ノ畑			W	2F			京都の近代和風	2009	7		t	t147
83	?	1964	4	昭和	39	衣笠山の家	A	京都	増田友也	藤木工務店	RC	2F	240㎡		新建築	1964	5		o	o005
84	?	1964	9	昭和	39	Y氏邸	A	京都市中京区衣の棚通二条上ル	坂倉準三建築設計研究所(西沢文隆 太田隆信)	春田工業	RC	2F	279㎡		新建築	1965	7		o , k	o006 k017
85		1964	12	昭和	39	京都商工会議所	H	京都市中京区烏丸通夷川上る少将井町240番地	富家建築事務所	清水建設	SRC	6F,B1F	9,055㎡		建築と社会	1965	4		y	y062

用途(13分類):A:独立住宅 B:集合住宅 C:交流施設 D:運動施設 E:文化施設 F:商業施設 G:宿泊施設 H:オフィス I:庁舎 J:医療施設 K:教育施設 L:宗教施設 M:産業施設

京都 近現代建造物 一次資料リスト

No.	存否: ○: 存 ×: 否 ?: 不明	竣工年月				建物名称	用途 13 分類	所在地	設計者	施工者	建築諸元			主な受賞歴等	掲載資料	掲載年月		備考	検索者	個別 番号
		西暦		和暦							構造	階数	延床			西暦				
		年	月	元号	年											年	月			
86		1964		昭和	39	京都府宇治市庁舎	I	宇治市宇治琵琶33番地	石本建築事務所	栗本建設工業	RC	3F,B1F	5,068㎡		建築と社会	1964	1		y	y052
87		1964		昭和	39	新京都駅	M		大阪幹線工事局	鉄建建設	RC+S	3F	27,100㎡		建築と社会	1964	10		y	y053
88		1964		昭和	39	京都山一證券ビル	H		三菱地所	戸田建設					建築と社会	1964	5		y	y054
89	○	1964	12	昭和	39	京都タワービル	F	京都市下京区烏丸7条下ル	山田守建築事務所 構造:京大榑橋研究室	大林組	SRC	9F,B3F	25,000㎡	鉄塔S造100M	建築と社会	1964	6		y	y055
90		1964		昭和	39	京大原子炉実験所	K	大阪府泉南郡熊取町朝代	財団法人建築研究協会(京都大学増田研究室)	鹿島建設					建築と社会	1964	8		y	y058
91		1964		昭和	39	建設省共済組合京都宿泊所「平安房」	G		西村正邦						建築と社会	1964			y	y057
92	○	1964		昭和	39	岡崎つる家	F	京都市左京区岡崎東天王町	吉田五十八	鹿島建設	W	2F			総覧 日本の建築 京都の近代和風	2009	7		t , n	t157 n010
93	×					京都市東山会館	GC	京都・栗田口	京都大学 増田研究室	藤田組 大阪支店	RC	2F			新建築	1964	7		k	k015
94		1965		昭和	40	京都国立博物館 新陳列館	E		基本設計:森田慶一 設計監理:近畿地建営繕部	戸田建設	SRC	6F,B1F		BCS賞	建築と社会 総覧日本の建築	1965	10		n , y	n011 y059
95		1965		昭和	40	京都住信ビル	H		日建設計工務	竹中工務店					建築と社会	1965	10		y	y060
96	×	1965		昭和	40	京都産業会館	C		内藤建築事務所	竹中工務店					建築と社会	1965	12		y	y061
97		1965		昭和	40	三好家住宅	A	亀岡市曾我部町城裏			W	2F			京都の近代和風	2009	7		t	t148
98		1966	8	昭和	41	同志社高等学校体育館	K	京都市左京区岩倉大鷲町	日建設計工務大阪事務所	浅沼組	RC	2F	3,536㎡		建築と社会	1968	5			
99		1966	12	昭和	41	智積院会館	L	京都市東山区東山七条	京都大学増田研究室	藤田組	RC	3F	2,518㎡		建築と社会 総覧日本の建築	1967	5		n , y	n013 y083
100		1965	11	昭和	40	京都市立病院	J	京都市中京区壬生東高田町1の2	基本計画:小川健比子・京都市 実施設計:日建設計工務	大成建設	RC	5F,B1F	13389		建築と社会	1966	1		y	y064
101		1966	1	昭和	41	京都府立勤労会館	C	京都市中京区烏丸通竹屋町上る大名町	内藤建築事務所	浅沼組	RC	7F,B1F	5,201㎡		建築と社会	1966	2		y	y067
102		1965	11	昭和	40	京都府西陣警察署	I	京都市上京区御前通今小路下ル馬喰町692-1	富家建築事務所	松村組	RC	4F	2090		建築と社会	1966	2		y	y068
103		1966	1	昭和	41	京阪神不動産京都場外発売所	F	京都市東山区大和大路四条下ル小松町	赤松菅野建築設計事務所	鹿島建設	RC	3F,B1F	2046		建築と社会	1966	4		y	y069
104		1966	2	昭和	41	郵政省京都地方簡易保険局	I	京都市左京区松ヶ崎横縄手町8	郵政省	鹿島建設	RC	5F	18511		建築と社会	1966	5		y	y070
105	○	1966		昭和	41	国立京都国際会館	E		設計:大谷幸夫 協力:設計連合 構造:横山建築構造設計事務所 設備:桜井建築設備研究所 工事管理:建設省近畿地方建設局	大成建設	SRC+RC	6F,B1F		建築と社会 新建築 総覧日本の建築	1966	6		k , n , y	k019 n012 y071	
106		1966	1	昭和	41	京都中央信用金庫西五条支店	H	京都市右京区西大字五条下ル	竹中工務店	竹中工務店	RC	3F	904		建築と社会	1966	7		y	y072
107		1966		昭和	41	近畿日本鉄道京都駅	M	京都市	安井建築事務所	鉄建建設 大日本土木	RC	2F			建築と社会	1966	7		y	y073
109		1966	6	昭和	41	四条外科病院(増築)	J	京都市四条堀川	京都建築事務所	真柄建設	RC	7F	1315		建築と社会	1966	8		y	y075
110		1966	6	昭和	41	医療法人葵会北病院	J	京都市北区柴野	京都建築事務所	浅沼組	RC	3F	916		建築と社会	1966	8		y	y076
111		1966	5	昭和	41	出光興産(株)京都支店	H	京都市下京区西木屋町五条下ル橋詰町	村野・森建築事務所	間組	S+RC	4F	1532		建築と社会	1966	9		y	y077
112	○	1966		昭和	41	御蔵山の家	A	京都市北区小山花ノ木町18-19	吉村順三		RC その後増築あり	1F	64㎡		吉村順三全集より				o	o008
113	○					俵屋旅館	G	京都・麩屋町姉屋小路	吉村設計事務所	野村建設	W		536㎡		新建築	1966	6		k	k018
115		1967	8	昭和	42	丸善KK京都支店	H	京都市中京区河原町蛸薬師上る奈良屋町	清水建設	清水建設	RC	6F,B1F	3827		建築と社会	1967	12		y	y080
117		1966	3	昭和	41	京都大学結核研究所病棟管理室	K	京都市左京区聖護院河原町京大病院構内	京都大学施設部	清水建設	RC	5F,B1F	5059		建築と社会	1967	4		y	y082
118		1967	5	昭和	42	京都YWCA(増築)	L	京都市上京区室町通水上ル	宮家建築事務所	戸田建設大阪支店	RC	5F	1498		建築と社会	1967	6		y	y084
119		1967	3	昭和	42	京都八幡電報電話局	I	京都市蓮綴喜郡八幡町大字八幡町今田	日本電信電話公社近畿電気通信局第一建築部	大日本土木	RC	3F,B1F	3021		建築と社会	1967	8		y	y085
120		1967	6	昭和	42	神戸銀行京都支店	H	京都市下京区四条通麩屋町西入ル立売東町25-1	梓建築事務所	大林組	SRC	3F,B1F	2173		建築と社会	1967	9		y	y086
121	○	1967		昭和	42	桂カトリック教会	L	京都市西京区川島尻堀町30	ジョージナカシマ	宝建設	RC	1F			総覧日本の建築				n , y	n014 y087
122	?	1968	5	昭和	43	京都市北部清掃工場	M	京都市右京区梅ヶ畑	沖種郎・設計連合	熊谷組	RC	6F,B1F	5,435㎡		新建築	1968	6		k	k020
124		1967	8	昭和	42	社団法人京都府農協会館	H	京都市南区東九条西山王町2	東畑建築事務所 構造設計:翼建築設計事務所	西松建設	RC	5F,B1F	7,070㎡		建築と社会	1968	1		y	y089
125		1967	11	昭和	42	ワコール本社ビル	H	京都市南区吉祥院中島町29	富家建築事務所	戸田建設	SRC	7F,B1F	20,499㎡		建築と社会	1968	1			y177
126		1968	7	昭和	43	関西電力共済会館京都支所	H	京都市左京区岡崎円勝寺町23-2	竹中工務店	竹中工務店	RC	4F	1,471㎡		建築と社会	1968	10		y	y090
127		1968	5	昭和	43	京都工業会館	H	京都市右京区西京極町の坪町26	内務建築事務所	竹中工務店	RC	4F,B1F	3,293㎡		建築と社会	1968	11		y	y091

用途(13分類):A:独立住宅 B:集合住宅 C:交流施設 D:運動施設 E:文化施設 F:商業施設 G:宿泊施設 H:オフィス I:庁舎 J:医療施設 K:教育施設 L:宗教施設 M:産業施設

京都 近現代建造物 一次資料リスト

(4 / 5)

No.	存: ○ 否: ×	竣工年月				用途 13 分類	所在地	設計者	施工者	建築諸元			主な受賞歴等	掲載資料	掲載年月		備考	検 索 者	個 別 番 号	
		西暦		和暦						構造	階数	延床			西暦	月				
		年	月	元号	年															年
128		1961	3	昭和	36	京都市水道局烏羽下水処理場ポンプ室上家（HPシェル構造）工事	I	京都市下京区上烏羽塔の森	京都大学増田研究室 白井剛	銭高組 内山義治	HPシャーレ構造	1F,B1F	1,545㎡		建築と社会	1968 1961	11 7		y	y092
129		1967	4	昭和	42	京都九条市街地住宅	B	京都市南区西九条南田町1-19	日本住宅公団大阪支所	浅沼組	SRC	10F,B1F	15,255㎡		建築と社会	1968	5		y	y093
130		1968	1	昭和	43	京都冠婚葬祭互助センター玉姫殿	F	京都市中央区西大路通り丹町下ル	松田設計事務所	浅沼組	RC	5F,B1F	3,137㎡		建築と社会	1968	5		y	y094
131		1968	3	昭和	43	京都工芸繊維大学付属図書館	K	京都市左京区京都工芸繊維大学構内	文部省管理局教育施設部大阪工事事務所	大日本土木大阪支店	RC	3F	2,500㎡		建築と社会	1968	7		y	y095
132		1968	5	昭和	43	京都市北部清掃工場	I	京都市右京区梅ヶ畑高鼻町	沖種郎・設計連合	熊谷組	不明	不明	5,435㎡		建築と社会	1968	8		y	y096
133		1968	3	昭和	43	武田染織KK京都支店	H	京都市中京区三条通烏丸西入御蔵町82	竹中工務店	竹中工務店	RC	6F	1,656㎡		建築と社会	1968	8		y	y097
134		1967	11	昭和	42	京都伏見下水処理場沈砂地及ポンプ場	I	京都市伏見区横大路千両松町	日本水道コンサルタント一級建築士事務所	間組	RC	1F,B3F	7,417㎡		建築と社会	1968	9		y	y098
135		1968		昭和	43	大原山荘	G	京都市左京区大原上野町238	堀口捨巳	清水建設	W+SRC	1F,B1F			総覧日本の建築	1968			n . y	n015 y099
136		1968		昭和	43	水度神社 社務所	L	城陽市寺田宮ノ谷			W	1F			京都の近代和風	2009	7		t	t149
137		1969	2	昭和	44	都ホテル・ガーデンウイング	G	京都市東山区栗田口華頂町1番地	村野・森建築事務所	大林組	RC	6F,B3F	9,536㎡			1969	6		y	y178
138	？	1969	7	昭和	44	洛西の家	A	京都市右京区竜安寺	彦谷邦一	藤木工務店	RC	2F	224㎡		新建築	1970	2		o . k	o009 k024
139		1969	7	昭和	44	彦谷邦一郎	A	京都市右京区竜安寺	彦谷建築事務所			2F	224㎡		建築と社会	1973	7		y	y153
140	○	1969	9	昭和	44	新山科浄水場本館	M	京都市山科勸修寺	京都大学意匠研究室+設計事務所洋洋社	佐藤工業	RC	3F,B1F	3,686㎡		新建築	1969	12		k	k023
141		1969		昭和	44	京都市新烏羽下水処理場塩素混和池機械棟	I	京都市南区上烏羽塔之森四ツ谷町	京都大学工学部意匠研究室・洋々社 構造: 京都大学工学部若林研究室	大成建設	RC	1F	465㎡		建築と社会	1969	6	屋根シルバークー ル工法	y	y101
142	○	1969	5	昭和	44	京都市青少年科学センター	E	京都市伏見区深草池の内町13	日建設計工務大阪事務所	熊谷組	RC	5F	9,429㎡		新建築 建築と社会	1969 〃	8 7		k . y	k022
143	○	1969	3	昭和	44	京都府議会棟	I	京都市上京区下立売通り新町西入	日建設計工務	三井建設	RC+S	3F,B1F	7,668㎡		新建築 建築と社会	1969	7		k . y	k021
144	？	1970	2	昭和	45	Fさんのゲストハウス	A	京都市左京区松ヶ崎西山町13-3	赤坂建築事務所	野畑機設	S	1F	139㎡		新建築	1970	2		o	o010
145	？	1970	4	昭和	45	ロンシャン本社	H	京都市山科大塚	竹中工務店	竹中工務店	RC	5F,B1F,P2F	4,105㎡		新建築	1970	9		k	k025
146		1970	9	昭和	45	細井商店社屋	H	京都市北区紫竹桃ノ本町 8 番 地	洋々社	あめりか屋	RC	5F	975㎡		建築と社会	1972	5		y	y139
147		1969	10	昭和	44	京都グランドホテル	G	京都市下京区東堀川通塩小路下ル	大林組	大林組	SRC	10F,B1F	28,033㎡		建築と社会	1970	1		y	y104
148		1971	10	昭和	46	京都市西部清掃工場	I	京都市右京区大枝沓掛町26	大建設計	鴻池組	SRC	4F,B1F	7,805㎡		建築と社会	1972	1		y	y105
149		1970	6	昭和	45	京都市衛生研究所	I	京都市中京区壬生東高田町	日建設計	水野建設	RC	6F,B1F	4,110㎡		建築と社会	1970	12		y	y106
150		1969	12	昭和	44	京都府立文化芸術会館	E	京都市上京区寺町通広小路下る東桜町一番地	富家建築事務所	清水建設	RC	3F,B1F	4,388㎡		建築と社会	1970	4		y	y107
151		1970	2	昭和	45	京都オリエンタルホテル	G	京都市東山区山科上山花山桜谷町	大林組	大林組	RC	6F,B1F	19,406㎡		建築と社会	1970	5		y	y108
152		1970		昭和	45	ホテルフジタ	G	京都市中京区二条大橋西詰	吉村順三設計事務所	清水建設	SRC	7F,B1F			総覧日本の建築	1970			n . y	n016 y110
153				昭和	初期か 戦後	北本家住宅	A	南山城村大字田山小字北又			W	1F			京都の近代和風	2009	7		t	t155
154				昭和	初期か 戦後	町立木津小学校鹿背山分校	K	木津川市鹿背山鹿曲田			W	1F			京都の近代和風	2009	7		t	t156
155				戦後		五藤家住宅	A	八幡市八幡馬場			W	2F			京都の近代和風	2009	7		t	t168
156				戦後か		水月寺	L	八幡市八幡福祿谷			W	2F			京都の近代和風	2009	7		t	t169
157	？	1971	2	昭和	46	伏見医師会館	C	京都市伏見区大亀谷	都市科学研究所	増田組	RC+W	2F	434㎡		新建築	1971	4		k	k026
158		1971	4	昭和	46	近畿コカコーラ・ボトリング京都工場	M	京都府久世郡久御山町大字国井字新荒見	安井建築設計事務所	フジタ工業	SRC	1F	25,570㎡		建築と社会	1972	1		y	y125
159	？	1971	4	昭和	46	N氏邸	A	京都市左京区田中樋ノ口町5	彦谷建築設計事務所	上野工務店	RC+W	2F	358㎡		新建築	1972	8		o . k	o011 k031
160	？	1971	5	昭和	46	有本	F	京都市中京区三条通り御幸町西入ル	山本・西原建築設計事務所	萬木工務店	S	3F	338㎡		新建築	1972	3		k	k027
161	×	1971	7	昭和	46	京都市美術館収蔵庫	E	京都市左京区岡崎円勝寺町	川崎清（財団法人建築研究協会）	清水建設	RC	1F,B1F	1,790㎡		建築と社会 新建築	1971 1971	12 10		y . k	y112 k032
162	○	1971	7	昭和	46	京都信用金庫城陽支店	F	京都府久世郡城陽町	菊竹清訓建築設計事務所	前田建設工業	S		647㎡		新建築	1972	4		k	k029
163		1971	8	昭和	46	京都府立体育館	D	京都市北区大將軍鷹司町	富家建築事務所	フジタ工業	RC+S	3F	13,814㎡		建築と社会	1971	12		y	y114
164		1971	8	昭和	46	京都都信 用金庫本店	H	京都市宇治市宇治手攻浮2番」也	田中・小西建築事務所	大成建設	SRC	7F	5,503㎡		建築と社会	1972	2		y	y127
165		1971	10	昭和	46	京都市西部清掃工場	I	京都市右京区大枝沓掛町26	大建設計	鴻池組	SRC	4F	7,804㎡		建築と社会	1971 1972	12 1		y	y113 y134
166	×	1971	12	昭和	46	京都信用金庫九条支店	F	京都市南区東九条	菊竹清訓建築設計事務所	大都建設工業	RC+S	3F,B1F	1,213㎡		新建築	1972	4		k	k028
167		1971	12	昭和	46	日本中央競馬会 京都競馬場	D	京都市伏見区蔽島渡場島町32	安井建築設計事務所	大林組・鹿島建設・戸田建設	RC+PC+S	4F	33,242㎡		建築と社会	1972	1		y	y126
168		1971	7	昭和	46	大和証券京都支店	H	京都市下京区四条通麩屋町西入ル立売東町28-2	日建設計	鹿島建設大阪支店	RC	6F	2,233㎡		建築と社会	1971	11		y	y111
169		1971	3	昭和	46	京都産業大学第2体育館	K	京都市北区上賀茂津國町7番地	フジタ工業大阪支店	フジタ工業大阪支店	SRC	2F	3,386㎡		建築と社会	1971	8		y	y115
170		1971	3	昭和	46	加悦町農業協同組合農協会館	H	京都府与謝郡加悦町	櫛田建築設計事務所 京都府経済農業協同組合連合会	松村組	RC	3F	1,486㎡		建築と社会	1971	8		y	y116

用途 (13分類) : A:独立住宅 B:集合住宅 C:交流施設 D:運動施設 E:文化施設 F:商業施設 G:宿泊施設 H:オフィス I:庁舎 J:医療施設 K:教育施設 L:宗教施設 M:産業施設

京都 近現代建造物 一次資料リスト

No.	存否 ○: 存 ×: 否 ?: 不明	竣工年月				建物名称	用途 13 分類	所在地	設計者	施工者	建築諸元			主な受賞歴等	掲載資料	掲載年月		備考	検索者	個別 番号
		西暦		和暦							構造	階数	延床			西暦				
		年	月	元号	年											年	月			
171		1971	4	昭和	46	福知山ショッピングプラザ	F	京都府福知山市宇天田小字木村前	松村組本店設計部	松村組	RC	4F,B1F	60,609㎡		建築と社会	1971	10		y	y117
172		1971	6	昭和	46	田辺町農業協同組合本館	H	京都府田辺町大字田辺小字島本	翼建築設計事務所	間組	RC	3F	1,797㎡		建築と社会	1971	10		y	y118
173		1970	3	昭和	45	泉屋博古館（掲載時名称 有芳園西館）	E	京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24	日建設計	鴻池組	RC+S	2F,B1F	2,303㎡		建築と社会	1970 1971	1 11		y	y119
174		1971	4	昭和	46	日吉町農業協同組合本館	H	京都府船井郡日吉町殿田小字尾崎	翼建築設計事務所	鴻池組	RC	3F	1,092㎡		建築と社会	1971	12		y	y120
175		1970	11	昭和	45	亀岡会館・亀岡市中央公民館	C	亀岡市内丸町一番地の18	株式会社山本・西原建築設計事務所	松村組	RC	5F,B1F	6,597㎡		建築と社会	1971	2		y	y121
176		1970	11	昭和	45	金鶏殿	L	京都市東山区今熊野	加藤建築事務所	松井建設株式会社大阪支店	RC	3F,B1F	1,190㎡		建築と社会	1971	2			y179
177		1971	3	昭和	46	亀岡中小企業レクリエーションセンター	C	京都府亀岡市本梅町平松	久米建築事務所	松村組	RC	3F	2,891㎡		建築と社会	1971	8			y180
178		1971		昭和	46	青少年文化研修道場	C	宇治市五ヶ庄三番割 黄檗山万福寺	疋田設計事務所	松村組	RC	4F,B1F	5,017㎡		建築と社会	1971	7		y	y122
179		1971		昭和	46	京都信用金庫修学院支店	F	京都市左京区修学院大林町2ー1	菊竹清訓建築事務所	大都建設工業	SRC	2F,B1F			総覧日本の建築	1971			n , y	n017 y124
180		1972	2	昭和	47	京都銀行事務センター	F	京都府南区上鳥羽塔ノ本町	日建設計	竹中工務庖	RC	5F	11,620㎡		建築と社会	1972	9		y	y132
181	○	1972	3	昭和	47	京都大学総合体育館	D	京都市左京区吉田泉殿町 京大西部構内	京大增田研究室	大林組	RC	3F,B1F	7,925㎡		建築と社会 総覧 日本の建築 新建築	1972 1972	5 6		k , n , y	k030 n019 y131
182		1972	3	昭和	47	北野保育園	K	京都市上京区五辻 七本松西入る上る溝前町1034	地域計画建築研究所	宝建設	RC+S	2F	999㎡		建築と社会	1972	1		y	y136
183		1972	3	昭和	47	福知山市市民会館	C	福知山市宇内記 1 0 0 番地	共同設計K K一級建築士事務所	松村組	RC+PC+S	4F	3,294㎡		建築と社会	1972	9		y	y141
184		1972	4	昭和	47	宇治市農協会館	H	宇治市織島町大町 1 3	翼建築設計事務所	フジタ工業	RC	3F	1,545㎡		建築と社会	1972	9		y	y140
185		1972	4	昭和	47	八瀬野外保育センター	K	京都市 左京区八瀬野瀬町 2 0 0	地域計画建築研究所	宝建設			557㎡		建築と社会	1972	1		y	y137
186	○	1972	5	昭和	47	石川ハウス	A	京都市	竹中工務店	竹中工務店	RC		1,291㎡		DAASデータより				o	o012
187		1972	5	昭和	47	出江寛邸	A	京都市伏見区桃山町	出江寛		W	2F、B1F	131㎡		建築と社会	1973	7		y	y154
188	○	1972	8	昭和	47	京都信用金庫円町支店	F	京都府京都市中京区西ノ京南大炊御門町	菊竹清訓建築設計事務所	前田工務	RC	2F	799㎡		新建築 総覧 日本の建築	1972	12		k , n	k033 n018
189	×	1972	9	昭和	47	京都信用金庫西陣支店	F	京都市上京区	菊竹清訓建築設計事務所	鹿島建設	RC	3F,B1F	1,973㎡		新建築	1972	12		k	k034
190		1972	9	昭和	47	東本願寺会館	L	京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754	日新建築設計事務所	佐藤工業	RC	3F,B1F	4,475㎡		建築と社会	1973	1		y	y146
191		1972	11	昭和	47	日新電機側京都工場体育館	D	京都市右京区梅津高畝町	間組	間組	RC	3F,B1F	2,361㎡		建築と社会	1973	11		y	y150
192	?	1971	11	昭和	46	京都長谷ビル	H	京都市下京区新町通五条下ル蛭子町107	内藤建築事務所	鴻池組	SRC	9F,B1F	33,294㎡		建築と社会	1972	4		y	y128
193		1972	3	昭和	47	京都府庁舎(事務棟)	I	京鶴市上京区下立売過(車掘府庁内)	日建設計	浅沼組	SRC	6F,B1F	16,892㎡		建築と社会	1972	5		y	y129
194		1972		昭和	47	東寺ハイム	B	京都市南区西九条南田町 1－4 管田 町 19－10		工間組	SRC	11F,B1F	5,504㎡		建築と社会	1972	1		y	y133
195		1972		昭和	47	秀蒙苑ビル 外市本社	H	京都市下京区四条通烏丸東入ル長刀鉾町27	吉村建築事務所	藤木工務庖	SRC	9F	4,340㎡		建築と社会	1972	1		y	y135
196		1972		昭和	47	入龍宮幽斉殿	L	宇治市党の川32	四方設計工務	光明建設	SRC	2F	1,949㎡		建築と社会	1972	4		y	y138
197		1973	1	昭和	48	安田生命京都ビル	H	京都市下京区烏丸通松原下る五条烏丸	大成建設	大成建設	RC	6F,B1F	4,104㎡		建築と社会	1972	5		y	y130
198	○	1973	1	昭和	48	国立京都国際会館増築(プレスセンター)	E	京都市左京区	大谷幸夫+大谷研究室	大成建設	SRC+RC	3F,B1F	6,368㎡		新建築	1973	6		k	k035
199	?	1973	12	昭和	48	K邸	A	京都市北区高野	川崎清+環境・建築研究所	大同建設	RC	2F	173㎡		新建築	1974	2		o , k	o013 k036
200		1973		昭和	48	京都ロイヤルホテル	G	京都市中京区河原町通三条上ル恵比須町426	富家建築事務所 大林組	大林組	SRC	10F,B3F	34,628㎡		建築と社会	1973	1		y	y142
201		1973		昭和	48	京都市染織試験場試験研究棟	I	京都市上京区烏丸通上立売上る	大建設計	ミラノ工務店	RC	3F	6,880㎡		建築と社会	1973	1		y	y143
202	?	1972	11	昭和	47	日新電機(株)京都工場体育館	D	京都市右京区高畝町	間組	間組大阪支店	RC	3F	2,361㎡		建築と社会	1973	6		y	y145
203		1973		昭和	48	京都大学農学部	K	京都市左京区北白川追分町	枝村建築事務所	鴻池組	RC	5F	7,964㎡		建築と社会	1973	11		y	y144
204		1973		昭和	48	龍谷大学図書館	K	京都市伏見区深草塚本町 6 7	中村建築設計事務所	清水建設大阪支店	RC	4F	5,031㎡		建築と社会	1973	11		y	y147
205		1973		昭和	48	嵯峨美術短大校舎	K	京都市右京区区嵯峨 五島町	鴻池組設計部	鴻池組	RC	4F	9,904㎡		建築と社会	1973	11		y	y148
206		1973		昭和	48	立命館大学衣笠学舎学生会館(一期)	K	京 都市北区等持院北町	富家建築事務所	清水建設大阪支店	RC	5F	2,874㎡		建築と社会	1973	11		y	y149
207		1973		昭和	48	一行寺	L	京都市下京区西中筋花屋町上住吉町40	沢井一級建築士事務所	大成建設	RC	5F	953㎡		建築と社会	1973			y	y152
208		1973		昭和	48	川島テキスタイルスクール	K	京都市左京区静海市原町418	内井昭蔵建築設計事務所	竹中工務店	RC	1F,B1F			総覧日本の建築	1973			n , y	n020 y155
209		1973		昭和	48	同志社大学図書館	K	京都市左京区今出川通烏丸東入ル	大阪市立大学栗原研究室 富家建築事務所	大林組	RC+SRC	3F,B2F			総覧日本の建築	1973			n , y	n021 y156
210	○	1973		昭和	48	熊本ボックス	A	京都市左京区下鴨	宮脇壇建築研究室		RC+W								o	o014
211	○	1973	3	昭和	48	伏見稲荷大社九条御旅所泰安殿	L	京都市南区西九条池の内町98	横河建築設計事務所	西松建設	RC	1F	353㎡		建築と社会	1974	1		y	y161
212		1973	6	昭和	48	東本願寺東山浄苑	L	京都市東山区山科上山花山旭山町 8 番地 1 , 2 , 3	和興建築事務所	熊谷組	RC	2F,B1F	12,842㎡		建築と社会	1974	1		y	y162

用途(13分類):A:独立住宅 B:集合住宅 C:交流施設 D:運動施設 E:文化施設 F:商業施設 G:宿泊施設 H:オフィス I:庁舎 J:医療施設 K:教育施設 L:宗教施設 M:産業施設

京都 近現代建造物 二次資料リスト

No.	竣工年	名称	設計者	施工者	市町村	主な用途	写真	備考
34	1955 (S30)	鹿苑寺金閣		棟梁: 木村明次郎	京都市 北区	宗教施設		
58	1960 (S35)	ウェスティン 都ホテル京都 数寄屋風別館 「住水園」	村野森建築事務所	大林組	京都市 東山区	宿泊施設		R2 現地取材 実施済
2	1944 (S19)	四君子苑	北村謹次郎	北村捨次郎	京都市 上京区	文化施設		R2 現地取材 実施済
78	1965 (S40)	北村邸	吉田五十八	大林組	京都市 上京区	独立住宅		R2 現地取材 実施済
89	1965 (S40)	京都タワー	山田守建築事務所 京大欄橋研究室	大林組	京都市 下京区	商業施設		R2 現地取材 実施済
105	1966 (S41)	国立京都 国際会館	設計:大谷幸夫 協力:設計連合 構造:横山建築構造設計 事務所 設備:桜井建築設備研究所 工事管理:建設省近畿地方 建設局	大成建設	京都市 左京区	交流施設		R3 現地取材 内定
112	1966 (S41)	御蔵山の家	吉村順三設計事務所		宇治市	独立住宅	※個人住宅の為 写真省略	
113	1966 (S41) 掲載年	俵屋旅館	吉村順三設計事務所	野村建設	京都市 中京区	宿泊施設		R3 現地取材 内定
121	1967 (S42)	桂カトリック 教会	ジョージナカシマ	宝建設	京都市 西京区	宗教施設		R2 現地取材 実施済
173	1970 (S45)	泉屋博古館	日建設計	鴻池組	京都市 左京区	文化施設		R2 現地取材 実施済
179	1971 (S46)	京都信用金庫 修学院支店	菊竹清訓建築設計 事務所	大都建設工業	京都市 左京区	商業施設		R2 現地取材 実施済
188	1972 (S47)	京都信用金庫 円町支店	菊竹清訓建築設計 事務所	藤田工務	京都市 中京区	商業施設		R2 現地取材 実施済

建築概要書						
名称	ウェスティン都ホテル京都 数寄屋風別館「佳水園」					
所在地	京都市東山区栗田口華頂町1					
竣工年月	1960年(昭和35年)			時代区分	戦後前期	
用途	宿泊施設					
建築諸元	構造	W+RC	階数	1F,2F,B1F	延べ面積	1617.5㎡
設計	村野森建築事務所				主な 受賞歴	
施工	大林組（門は中村外二工務店）					
履歴	移築	増築	補修	改修(耐震改修を含む)後、令和2年7月リニューアルオープン		
	指定	登録	選定			
図面 等						
参考文献	総覧 日本の建築、都ホテル100年史、都ホテル50年史、もうひとつの京都、村野藤吾作品集					
備考	掲載誌:「新建築」1961年6月、「建築と社会」1961年6月					
所見						
都ホテル「佳水園」は東山華頂山麓一帯（約1万5千坪）の敷地に建つ本館棟7階レベルの高台にある。佳水園の敷地は貴顕の別荘があった所で、自然の岩山に疏水の水を生かした小滝の在る「白楊の庭」を継承し、醍醐寺三宝院の庭を本歌とする瓢箪と盃形の芝山（当初は苔山）が中心の白砂敷中庭が創られ、それを囲って客室群が建つ。 本館を出て渡り廊下、土堀沿いを行くと茅葺風の厚い桧皮葺屋根と野太い柱梁の野趣に富む門を潜り園内に入る。直進正面には中庭に面し床、軒、棟高を低く押え込み深い軒出で、緩勾配、箕甲の妻面を持つ銅板屋根と一部切妻瓦屋根が、幾重か幅湊しながら軽やかに、リズムカルに傾斜地なりに展がる。軒樋を排した軒先は鉄材補強と板一枚の工夫で極限まで薄く創られている。床高の庭面に近い低さも、床版をRC造とし地盤を掘り下げた工夫である。 客室群の構成は、大要は雁行型で4個所に分節され、各室2方向に開口を確保する開放感溢れる室内を造り出すと共に、屋根の架け方に美観上の工夫が凝らされている。雁行型は建物床面積に対し外周表面積を最大化する日本の伝統建築で生み出されたプランニングで、庭屋一如の典型プラン。 近年耐震改修に伴い、各客室2室を1組とし、全客室数は20室から12室にまとめられた。全て畳室だったのを、各組一室はベッド設置、書斎コーナーを付し、大型木製浴槽とゆとりの水廻りに改変。但し外観、玄関からロビー、廊下は建設時の意匠のままに留められ、新たにライブラリーと宴会場を客室2室として新設。各客室内も明り障子や床の間、飾り棚、天井等も継承され、改修による新意匠は最小限に留めている。古典の京数寄屋に比し木割りの細さとチリ寸法の小ささは、村野数寄屋の特徴。 西欧文化の宿「ホテル」は下足文化だが、佳水園では各客室内の踏込玄関を上がるまでのロビーや廊下は下足で、以降は上足の日本の宿となる。上足（素足）文化の室内では、武骨、堅牢、硬さ、重々しさは斥けられ、より清潔で、繊細、優しさ、暖か味と軽快さ、そして柔らかな光が好まれる。Intimateで優雅、軽妙、透けのある自然素材数寄屋の面目がそこにある。[N]						
評価 (5段階)	4				斬新的な作品　＜革新性＞	
	5				意匠に優れた作品　＜意匠性＞	
	5				顕著な設計者の展開を示す　＜作家性＞	
	4				技術の発展を例示する作品　＜技術性＞	
	5				ある時代の建築生産の典型を示す作品　＜時代性＞	
	4				地域的な特徴を明らかにする作品　＜地域性＞	
	5				親しく利用されている作品　＜継続性＞	

ウェスティン都ホテル京都 数寄屋風別館「佳水園」



佳水園への野趣溢れる門
茅葺風だが桧皮葺（施工 中村外二工務店）



門脇にRC造の厨房＋木造の元宴会場棟（現客室）



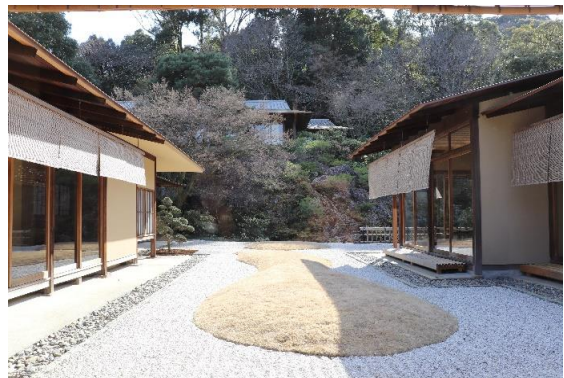
門を直進した中庭側正面に客室用廊下の窓と
軽やかな緩勾配屋根



玄関ポーチからロビー、中庭側を見る
床、軒、棟高は低く、軒出は深く



玄関からロビー、廊下を見る



廊下から中庭の正面側「白楊の庭」を見る
京都市文化財 名勝 佳水園庭園



客室内座敷
木割の細さとチリ寸法の小さい村野数寄屋



客室内ベッドルーム
室内イメージは継承され、改修時ベッド新設

ウェスティン都ホテル京都 数寄屋風別館「佳水園」



玄関へのアプローチから
門を見返す



玄関前から中庭正面を右に、
背後に客室を望む



元宴会場と厨房を結ぶ主階段



改修による新設ライブラリーへの
出入口（廊下から見る）



ライブラリー内腰掛コーナー



中庭に面した客室沿いの廊下



最上位置の客室前
素通し竹格子戸（既設のまま）



客室内新設書斎コーナー



最上位置客室からの
中庭側俯瞰

建築概要書						
名称	四君子苑					
所在地	京都市上京区河原町今出川下ル東入梶井町448					
竣工年月	1940年～1944年(昭和15年～昭和19年)			時代区分	戦中	
用途	茶の湯施設					
建築諸元	構造	W	階数	1F	延べ面積	213.0㎡
設計	北村 謹次郎				主な 受賞歴	
施工	北村 捨次郎					
履歴	移築	増築	補修			
	指定	登録	選定	登録有形文化財(26－0094～0097)		
図面 等						
参考文献	「京・数寄屋と茶庭」(四君子苑百景)[講談社]、数寄屋[淡交社]					
備考						
所見						
四君子苑－昭和を代表する数寄屋の名苑 苑は高野川と賀茂川の合流する出町柳より少し南、鴨川畔の西側敷地約650坪に在る。かつて公家屋敷の在った由緒ある地で、敷地東方正面に大文字山を仰ぐ市内きっての景勝地である。施主故北村謹次郎氏は京の近現代を代表する数寄者であり、氏の構想に基き美材、良材の得やすかった戦時下（昭和15年～19年）京の名工、北村捨次郎が施主との緊密なやりとりにより茶の湯の施設としての数寄屋（門、寄付玄関、立礼席、渡り廊下、腰掛待合、本席「珍散蓮」、広間「看大」）及び今は失き数寄屋造りの住居棟を純木造で完成された（棟梁の遺作となる）。 苑内では露地庭と雅な遣水のある野筋の庭が档丸太造り渡り廊下で巧みに区切られ併存する特筆すべき構成となっていて、随所に配された多くの貴重な石造美術品でも有名である。この京庭も施主の構想に基づき石の収集を含め佐野越守による。茶の湯を背景とする伝統文化に対する豊かな教養の持ち主であり、建築と庭の美を徹底的に追及された施主は、「普請大臣」を自称された程でその住みこなしも又見事に、この「昭和の文化財」は、今日まで縁者の方々の並々ならぬ尽力で守り継がれてきている。 敗戦後昭和20年から進駐軍に接収され、昭和34年まで軍医家族が住むと共に北村夫婦も数寄屋部分での生活を許された。時を経て昭和39年住居棟は吉田五十八氏による設計で建替。RCと一部鉄骨、一部木造の併用である。その後、土蔵と御花畑をなくし「北村美術館」を新築、昭和52年開館された。[N]						
評価 (5段階)		4			斬新的な作品　＜革新性＞	
	5				意匠に優れた作品　＜意匠性＞	
					顕著な設計者の展開を示す　＜作家性＞	
	5				技術の発展を例示する作品　＜技術性＞	
		4			ある時代の建築生産の典型を示す作品　＜時代性＞	
	5				地域的な特徴を明らかにする作品　＜地域性＞	
	5				親しく利用されている作品　＜継続性＞	
	5				復原不可能な良材と工匠の卓越した技	
	5				施主の秀逸な誠に総合的なデザイン力(建築、庭園)	

四君子苑



門屋と土堀

構えず、高くなく、低くなく。軒先はリズムカルな無地鎌



住宅玄関への苑路見返し（門屋をのぞむ）

金棒石の延段



寄付玄関から門屋側を見る

仕切柵は施主考案の稲穂垣



立礼席（応接間）前、鎖の間

寄付含め柱は、全て北山杉丸太、面皮柱



立礼席（応接間）家具は吉田五十八作

普請は北村捨次郎棟梁



本席「珍散蓮」前の広縁（西側池庭を屋内へ引込む）

床は赤杉ウズクリ仕上市松張



「珍散蓮」2畳大目中板(床の間横は相伴席1畳又は茶道口ともなる創意の席)墨蹟窓は相伴席使いの時、外され吹放し



住居棟 居間から本席、奥に広間が続く

鴨川堤へ向かって敷地が高くなる

四君子苑



門屋 外部側勝手口付
档丸太（内法材等に巧みな手斧斫り



立礼席（応接間）から
茶席への渡り廊下（档丸太普請）



渡り廊下中間部の腰掛
床は敷瓦四半敷盲目地



渡り廊下中間部の腰掛.
背後は後年壁を除去し吹放された



渡り廊下見返し



住居棟から茶席棟への玄関



奥座敷の広間「看大」への廊下
敷地なりに上って行く



「看大」東側の土縁
見事な真黒石詰貼と真黒石沓脱



「看大」北東土縁と賀茂川堤側
生垣、石組と植栽

建築概要書						
名称	北村邸(四君子苑 主屋)					
所在地	京都市上京区河原町今出川下ル東入梶井町448					
竣工年月	1963年8月(昭和38年)			時代区分	戦後前期	
用途	独立住宅					
建築諸元	構造	RC+W	階数	2F,B1F	延べ面積	335.5㎡
設計	吉田五十八				主な 受賞歴	
施工	株式会社大林組					
履歴	移築 増築 補修					
	指定 (登録) 選定	登録有形文化財(26-0595)				
図面 等	確認申請書					
参考文献	新建築40(1965年4月号)、五十八さんの数寄屋 藤森照信 田野倉徹也著 鹿島出版会					
備考						
所見						
北村邸は、京都賀茂川大橋のほとりに位置し、実業家で茶人であった北村謹次郎の自邸（主屋）として、1963年に建てられた。1944年に、四君子苑として、大文字を臨む八畳広間の「看大」と二畳台中板入りの小間「珍散蓮」の茶室棟と対峙するかたちで主屋も構成されていたが、戦後、占領軍に接収されて改造されてしまったため、返還後、主屋部分を取り壊し、設計を吉田五十八に依頼することとなった。 吉田氏に依頼するきっかけは、北村氏も長唄をやっている関係ではなかったかと思われる。依頼されてから完成までに十六年費やしたとのことである。当初の新建築の記事によると、吉田氏は旧建物と新しい建物との取り合わせを最後まで悩んでいたようで、アンティークの栗材を使うことにより、調和を図ることができたと書いている。 旧建物の玄関から洋間にかけても接続部は、伝統的な数寄屋に見られる陰翳があり、そこからコンクリート造の建物に入ると、居間と和室二間ともに、庭に面した開放的な空間が広がる。特に和室は茶事をするための新しい空間として、コンクリートの大きな天井までの建具だけで構成するという手法や、欄間と一体化させた大型襖や、回転する柱で建具全てが引き込み戸にするなど、新しい試みが見られ、職人の精度が求められる緊張感のある納まりとなっている。また、サッシ方立の中に鉄骨柱を入れて補強するなど、コンクリート造でありながら、木造のような軽快さを見せている。その当時は珍しかったアルミサッシや、アルミ建材を簾や格子の和のデザイン要素の見立てとして利用するなど、世界に通用する数寄屋の近代化を目指していた、吉田五十八の真骨頂の住宅ともいえる。[0]						
評価 (5段階)		4			斬新的な作品 <革新性>	
		5			意匠に優れた作品 <意匠性>	
		5			顕著な設計者の展開を示す <作家性>	
		5			技術の発展を例示する作品 <技術性>	
		4			ある時代の建築生産の典型を示す作品 <時代性>	
		4			地域的な特徴を明らかにする作品 <地域性>	
		4			親しく利用されている作品 <継続性>	

北村邸(四君子苑 主屋)



全体配置写真



引き込み（押し込み）アルミサッシを開けてると
居間が庭と一体化する



居間 壁はローズウッド羽目、小壁と天井は
川島織物の布クロス貼。居間と和室に荒組子障子



居間内側、玄関への入り口と坪庭が見える
坪庭は当初樹木のみだったが、その後、灯籠が置かれた



居間から和室を臨む



欄間と一体化した大型襖



天井までの荒組子障子と埋め込み照明
庭側八畳は五分割、手前六畳は六分割の障子の割付

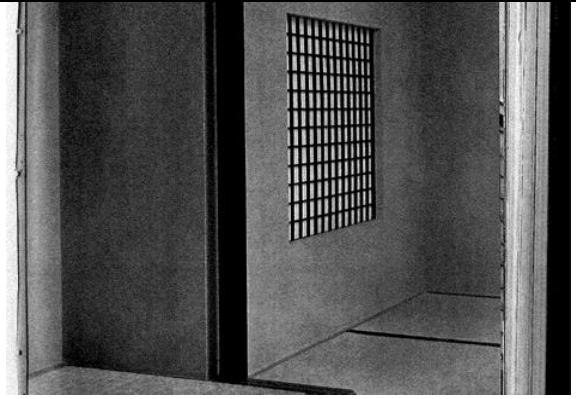


大型襖を開放し、仏間六畳から座敷八畳側を見る

北村邸(四君子苑 主屋)



仏間は漆塗格子となっており
上げ下げ式となっている。



建設当初の写真
漆塗格子を下した状態



居間のアルミサッシコーナーの敷居



簾に見立てたアルミのルーバー



柱自体が回転して、大型襖が壁の中に
引き込めるようになっている。



吉田五十八デザインの玄関照明



引込襖の為の回転柱

建築概要書						
名称	京都タワー					
所在地	京都市下京区烏丸七条下る					
竣工年月	1964年12月(昭和39年)			時代区分	戦後前期	
用途	商業施設					
建築諸元	構造	SRCタワー部は鉄骨応力外皮構造	階数	9F,B3F タワー部	延べ面積	25,798.886㎡
設計	山田守建築事務所 構造 京都大学棚橋研究室				主な 受賞歴	
施工	株式会社大林組					
履歴	移築 増築 補修	耐震診断平成19年 総合判定評価および耐震改修工事 平成21年				
	指定 登録 選定					
図面 等	山田総合設計にて保管					
参考文献	建築と社会(1965年4月号)					
備考	施設管理者 京阪ホテル&リゾーツ株式会社					
所見						
JR京都駅中央口前広場の北側に位置し、京都タワーと一般に称せられているが、10階建てのビルの上に工作物として鉄骨のタワーが載っている構造となっている。意匠設計は山田守、構造設計は棚橋諒の二名により、この特異な建物が実現した。外観は当初の形態をほぼ残しているが、内部は商業施設であり耐震改修とともに時流に合わせ多くの改修がなされている。この所見では主にタワー部について述べる。 京都タワー展望室は京都市内を望む京都で一番高いところ(地上100m)で360°の視界が確保され、外観のみならずこの展望は観光資源として今でも価値が高いと思われる。 山田守の日本の伝統をよりどころとしたと思われるデザインや棚橋諒の火力発電所の煙突に発想を求めた構造センス(応力外皮構造)は今も色あせない。コルビュジェが1920年代に工業生産力の表現としての船や自動車にデザインのヒントを得ていたエピソードを彷彿させる。 建設時は商業施設として、盆地形の中で際立った高さの由であろう、マスコミや文化人から批判された。建設後56年たった現在は、京都の玄関口のランドマークとして市民、観光客共に認知されたのではないかと。特に、タワーの胴体部分を白一色とし得たことと、展望室の楕円フレームは卓越した選択で、京都のイメージを強化するのに貢献している。 それは山田の若き日の秀作である東京中央電信局(1925年)のスカイラインの双曲線が39年後の晩年に京都タワー展望室の楕円にたどり着いたとはいえないか。山田自身京都タワーのデザインには納得していたとの説明もなされている。 その高さ故当時の街並みにインパクトを与えた京都タワーは、50年かけて新たな京都の景観を作る壮大な実験だったともいえる。時代を超えて景観を作り出した山田守の精神力と棚橋の構造解析、岩崎の施工(大林組)を今評価すべきと思う。そして景観と言う市民共有財産に成長した商業施設は今後どう変容していくのか、次なる論争が始まる時が来るのだろうか。50年後100年後の見る事ができない景観を考えさせる京都タワーである。[Y]						
評価 (5段階)	4				斬新的な作品 <革新性>	
	4				意匠に優れた作品 <意匠性>	
	4				顕著な設計者の展開を示す <作家性>	
	5				技術の発展を例示する作品 <技術性>	
	5				ある時代の建築生産の典型を示す作品 <時代性>	
	5				地域的な特徴を明らかにする作品 <地域性>	
	4				親しく利用されている作品 <継続性>	
	4				景観を作り出した作品 <京都らしさ>	

京都タワー



京都の街並みの上に伸びる京都タワー
灯台をイメージしている（棚橋）



断面では楕円形の鉄骨フレームの展望室
平面では円形



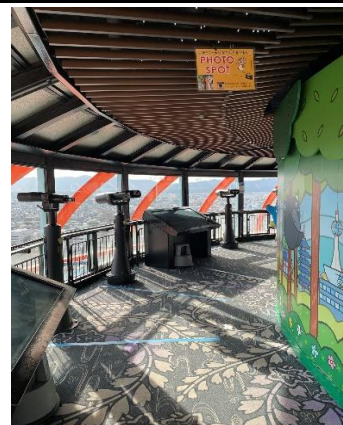
楕円形のボリュームが残る展望室階段部分
ガラスも楕円形に加工されている



展望室4階は展望室5階がオーバーハング



タワーの応力外皮構造がわかる階段室廻り



360° の視界の5階展望室

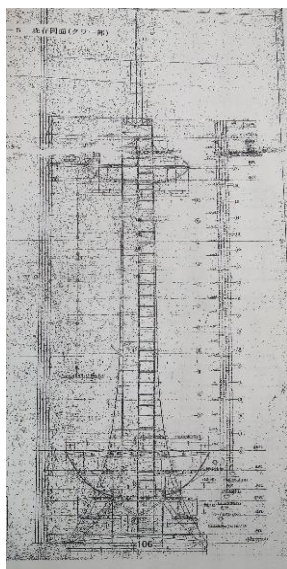


山田がこだわったタワーの曲線が建物と取り合う部分
8本の柱となり建物に取り付く



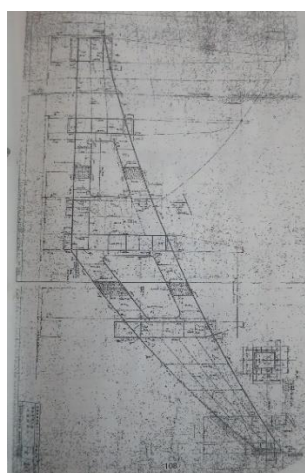
応力外皮構造（鉄板による煙突状の構造）の塔身から
鉄骨柱構造に切り替わる部分
特徴ある構造をニッチとしている展望室3階の客席

京都タワー



タワー鉄骨図

山田総合設計にて保管図書を撮影



タワー脚部の鉄骨図



タワーが建物に取り付く部分のダイナミックな造形



山田のスケッチ原画

このスケッチが実現された

山田総合設計にて保管図書を撮影



京都駅ビルのカーテンウォールに映る京都タワー

二つの話題になった建物が響きあっている

建築概要書						
名称	桂カトリック教会					
所在地	京都市西京区川島尻堀町30					
竣工年月	1965年(昭和40年)			時代区分	戦後前期	
用途	教会					
建築諸元	構造	RC		階数	1F	延べ面積
設計	ジョージ・ナカシマ					主な 受賞歴
施工	宝建設					
履歴	移築	増築	補修	平成17年(2005年) DOCOMOMO Japan115選、京都を彩る建物や庭園認定		
	指定	登録	選定			
図面 等						
参考文献	総覧日本の建築、もうひとつの京都、関西のモダニズム建築					
備考						
所見						
阪急桂駅から西へ300mほど入った閑静な住宅街に建つ。敷地のほぼ中央、北西から南東に走る軸線上に対象の新聖堂を配置する。新聖堂は、菱形の礼拝堂を中心に、南東角に円形の洗礼室を設け、共有のポーチを介してそれぞれの出入口を設ける。礼拝堂の北西側に祭壇を設け、その背部に三角形平面の聖具室を設ける。壁は内外とも杉板型枠の打ち放しコンクリート、屋根は30m×16mの菱形のHPシェルが架かり、軸線上の南東側から北西側に向かって反り上がる。天井は、HPシェルの曲面天井の現しで、屋根ボリュームの変化によって上昇感が与えられている。 1960年頃、信者数の増加により既存の聖堂では手狭になったことから、チベーサ神父はジョージ・ナカシマに桂教会の新聖堂の設計を依頼した。既に建築家から木工作家に転身していたナカシマが仕事を受けたのは、日本人収容所でお世話になった恩返しによるもので当時交わした約束によるものである。また、ナカシマが日本に設計した唯一の建築でもある。 HPシェルは、1950年代に入ると、メキシコの建築家フェリックス・キャンデラが好んで使い始め、1955年には本物件とよく似た菱形平面の教会を設計している。日本では、1963年に丹下健三設計の、東京カテドラル聖マリア大聖堂で使用されており、その後日本でもHPシェルの建物が増えていくことになる。建築界が新しい表現方法を模索していた時代を象徴する構造と言えるだろう。 桂カトリック教会は、HPシェルを取り入れながら、軒を出したり、障子を備えた出窓を設けるなど、環境や地域への配慮が伺われる。その一方で、構造を剥き出しにした内装は、断熱が弱く、夏熱く冬寒くと、利用者に不便を生じており、温熱環境は日本には適応していなかったようである。 祭壇、説教台、聖水台、礼拝者の長椅子、照明をはじめとする家具もナカシマによるものである。日本の建築界が新しいデザインを求めていた時代に、果敢に新しい構造を取り入れ、また建築と家具との融合に挑んだ作品であると思う。[T]						
評価 (5段階)	5				斬新的な作品 <革新性>	
		3			意匠に優れた作品 <意匠性>	
			2		顕著な設計者の展開を示す <作家性>	
	5				技術の発展を例示する作品 <技術性>	
	5				ある時代の建築生産の典型を示す作品 <時代性>	
			2		地域的な特徴を明らかにする作品 <地域性>	
	5				親しく利用されている作品 <継続性>	
					景観を作り出した作品 <京都らしさ>	

桂カトリック教会



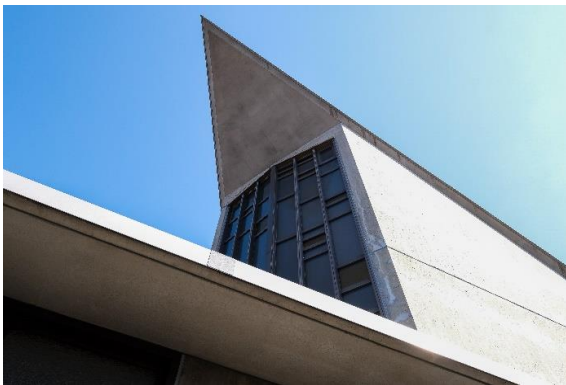
建物全景（東面）

左の円筒形が洗礼室・右が礼拝堂



建物西面

北西側に高く反り上がっている。



建物北西角

祭壇後背部の開口部



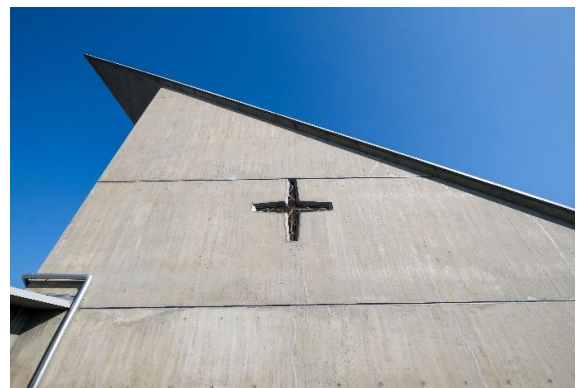
洗礼室

円筒形の洗礼室



円窓外観

桂離宮を思わせる意匠



十字架形のステンドグラス

壁を十字型にくり抜いている



礼拝堂内観（エントランスから祭壇を見る）

祭壇への上昇感を感じることができる



祭壇と背部のステンドグラス

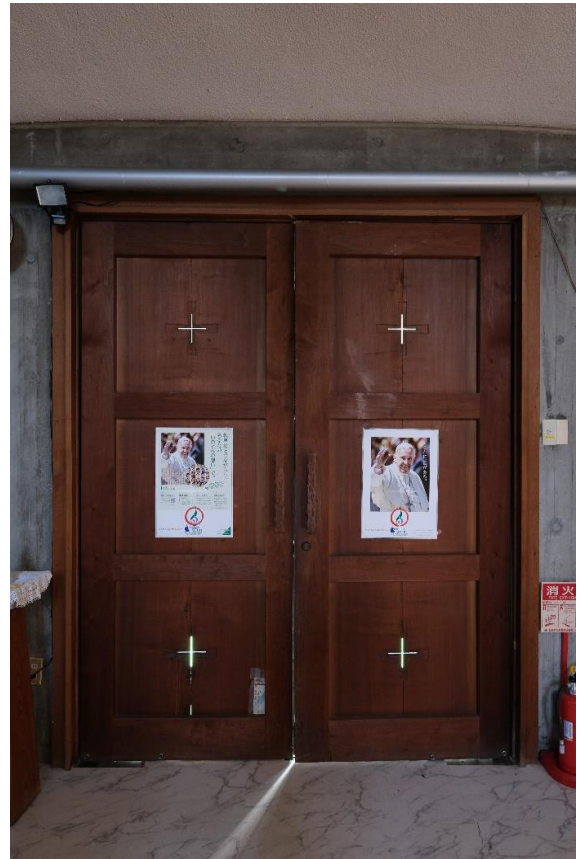
ジョージ・ナカシマのデザインによる家具

桂カトリック教会



円窓内観

障子が嵌まり和を感じる



エントランスドア

ジョージ・ナカシマのデザイン



聖水盤

ジョージ・ナカシマのデザイン



十字架形のスタンドグラス（内観）

ジョージ・ナカシマのデザイン



長椅子

ジョージ・ナカシマのデザイン



照明器具

ジョージ・ナカシマのデザイン



DOCOMOMO Japan選定と京彩認定品

建築概要書						
名称	泉屋博古館					
所在地	京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24					
竣工年月	1970年3月(昭和45年)			時代区分	戦後前期	
用途	博物館					
建築諸元	構造	RC屋根S		階数	2F,B1F	延べ面積 2,303.49㎡
設計	日建設計 小角亨					主な 受賞歴
施工	鴻池組					
履歴	移築 (増築) (補修)	1983年(S58)企画展示室増築 その他の改修				アスベスト撤去、吊天井、空調設備
	指定 (登録) 選定	2017年JIA25年建築選登録作品No.106				
図面 等	一部泉屋博古館保管					
参考文献	建築と社会(1970年1月号) 新建築(1974年9月) 建築画報(1978年3月)					
備考	施設所有者運営者 公益財団法人 泉屋博古館					
所見						
敷地は東山の麓にあり徐々にせりあがっていく地形で、大きな邸宅や閑静な住宅が連続する地域である。 展示室の大壁面と力強く立ち上がるピロティ柱が大スパンの軒下空間を作り、アプローチするものを迎える。この構成は、1959年竣工のコルビュジェの西洋美術館を彷彿させるが、ピロティの架構の力強さは構造施工の進歩による、より進化した空間となっているといえるだろう。 展示室は四つに分かれ中央の象徴的な吹抜け空間の周りを少しずつずれながら上昇していく構成である。形態と構造体の微妙なずれが動きを感じさせ事もこの建物の特徴となっている。 設計者のコメントに「屋根伏では4枚の羽根からなる風車を形作っており、内部空間のリズミカルな動線を表現している」とあるが、地形や外部空間を含めらせん状に空間が連続し上昇していく様は銅（当館の展示物は中国青銅器）の精錬の炎の動きを連想させ、その勢いは中庭から望む東山の大文字の火炎へと繋がっている。設計者は控え目にコメントしたのであろう、地形と建物が一体となって建築の力強さの表現へと昇華している。 展示室の屋根と天井のHPシェルの形態は、当時の建築で採用しているものがいくつかある。今回の調査の中では、京都信用金庫、桂カトリック教会、鳥羽浄水場ポンプ室が該当する。多くの設計者が戦後の経済復興の活気の中で魅力を感じる手法の一つであったのだろうと思われる。 地上レベルの開放性と、持ち上げられた展示スペースの閉鎖性、それをつなぐ中央吹抜けスペースの上昇感などは現在も当初の意図が保たれており、借景を含め外部空間の鹿ヶ谷ならではのゆとりの中で、当施設は運営者の理解とともに今後も生き続ける力を持った建築と評価できる。[Y]						
評価 (5段階)		4			斬新的な作品 <革新性>	
		5			意匠に優れた作品 <意匠性>	
		5			顕著な設計者の展開を示す <作家性>	
		4			技術の発展を例示する作品 <技術性>	
		4			ある時代の建築生産の典型を示す作品 <時代性>	
		5			地域的な特徴を明らかにする作品 <地域性>	
		5			親しく利用されている作品 <継続性>	

泉屋博古館



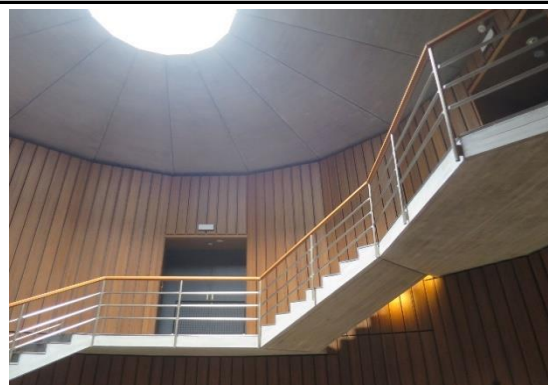
展示室の大きな壁面とピロティの
アプローチ



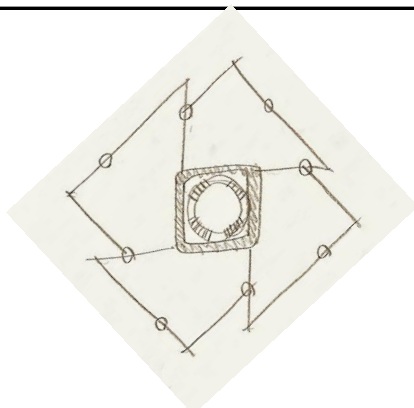
ピロティ柱



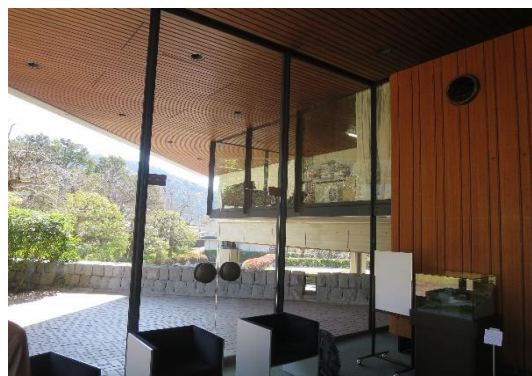
中央の吹抜けスペース、バリアフリー対応でリフトを設置
象徴的な空間の中では、デザイン処理に課題が残る



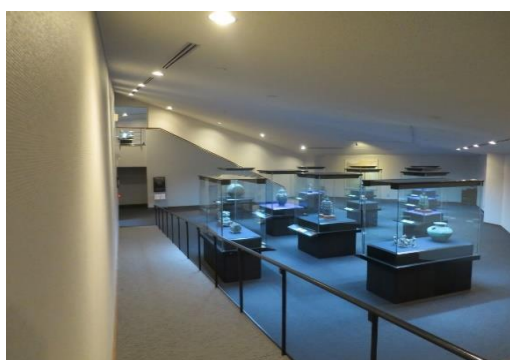
中央の吹抜けスペースを見上げる
トップライトから自然光が入る



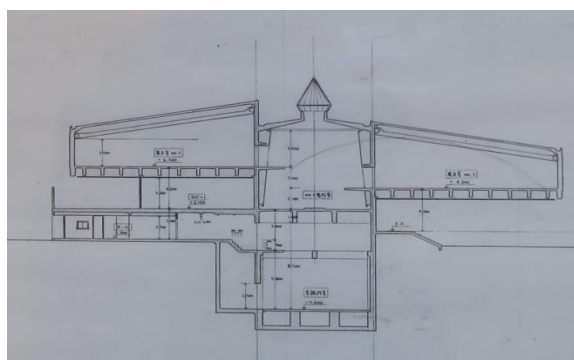
コアの壁構造とピン柱による、動きを感じさせる
平面と構造の模式図



応接室からアプローチ方向をみる



HPシェルの形態の展示室天井



断面図 保存図より撮影
株式会社日建設計提供

泉屋博古館



微妙にずれる展示室のボリューム



ピロティ柱も微妙にずれている



中庭から増築された企画展示室を望む



中庭からの外観



天王町交差点から泉屋博古館と大文字山を望む

建築概要書						
名称	京都信用金庫 円町支店					
所在地	京都市中京区西ノ京南大門町32-1					
竣工年月	1972年8月(昭和47年)			時代区分	戦後前期	
用途	商業施設					
建築諸元	構造	S+RC	階数	2F	延べ面積	835㎡
設計	菊竹清訓建築設計事務所				主な 受賞歴	
施工	藤田工務					
履歴	移築 増築 補修	補修等あり;ヒアリング及び現地確認に拠る				
	指定 登録 選定					
図面 等	新建築					
参考文献	新建築, もうひとつの京都					
備考						
所見						
1971年より約18年にわたり、この京の地に、京都信用金庫の店舗群が菊竹清訓建築設計事務所により設計および実現(約50店舗)が成された。今回、円町支店(1972年竣工)と修学院支店(1971年竣工)を、この2次所見に採りあげる。これらの建築および建築群は、当時の当該金庫理事長であった榊田喜四夫氏が提唱した「コミュニティ・バンク」という理想および考え方と、それを元に企画および進展増幅させ得る株式会社C D I(コミュニケーションデザイン研究所)の存在と、設計者：菊竹清訓氏により展開進められた。建築敷地は両支店共に、京都市内の幹線道路に面して建てられ、建築的構法は、アンブレラ・ストラクチャという菊竹氏が考案した、一本の鉄骨丸柱(406φ)と鉄板H Pシェルによるスペースモジュールを基本とする構成に拠り建築化が成され、円町支店では、14. 4m角1モジュールのみによる一体空間のバンキングスペースが形成され、修学院支店では、9. 6mモジュール4つによる一体のバンキングスペースが形成されている。この建築的解法により、銀行店舗側とお客側との連帯感が形成もされ、コミュニティ・バンクの思想が見事に体现されている。 また敷地内には、他に会議室(コミュニティスペース)や中庭等が設けられ、各々の店舗地域の市民たちに利活用が促され、コミュニティの形成が活発に成された。それらの積み重ねは、近年に新築された河原町御池に所在する新店舗[Qestion]に引き継がれている。 一方、残念ながら、これら当時の建築群は、老朽化による不具合等や、敷地面積に対しての容積率が決して高くはない設定であった事や、熱環境的には夏の暑さや冬の寒さを感じさせる内部であった事などもあるのか、修学院支店は、この3月には解体および、その後の新築が予定されている。建築の力強さや象徴性および永続性を求めもする我々にとっては、誠に悲しい事実である。ただ、建設当初より、5年毎での建て替えを視野に入れた店舗展開の構想であった事を鑑みれば、約50年は継続した事を是とする見解もある。また菊竹氏が当時提唱もされていた、メタボリズムの思想についても、思いを馳せる。 いずれにしても、当建築(円町支店および修学院支店)が、日本の近現代建築における1970年代を代表する建築群である事は疑いなく、および京都における同一設計者によるシリーズ化した建築群として特筆するべきアーキテクチャである。現在残されている、これらアンブレラ・ストラクチャの建築群が少しでも長く利活用され及び時代的建築物として遺されてゆく事を、ここに望む次第である。[K]						
評価 (5段階)	5				斬新的な作品 <革新性>	
		3			意匠に優れた作品 <意匠性>	
	5				顕著な設計者の展開を示す <作家性>	
	5				技術の発展を例示する作品 <技術性>	
	5				ある時代の建築生産の典型を示す作品 <時代性>	
	5				地域的な特徴を明らかにする作品 <地域性>	
		4			親しく利用されている作品 <継続性>	

京都信用金庫 円町支店



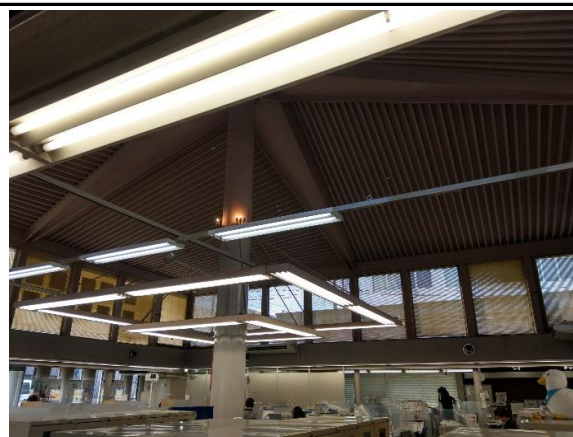
前面道路(丸太町通)側の外観 中央丸柱と二層構成の立面



外観背面 RC壁面とアンブレラ・ストラクチャ



1階の列柱とエントランス(写真左)とサッシ廻り



バンキングスペース内観 開放的な一体空間である



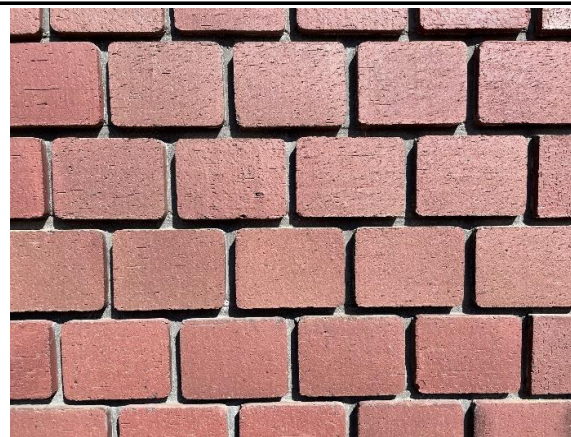
アンブレラ・ストラクチャ 丸柱と傘梁・HPシェルの屋根



会議室(コミュニティスペース)部とプラザ(屋外)



会議室内観 プラザ側(写真右)より自然光が差し込む



会議室部外壁のタイル納まり 目地モルタル無しによる陰影

建築概要書						
名称	京都信用金庫 修学院支店					
所在地	京都市左京区修学院大林町2-1					
竣工年月	1971年12月(昭和46年)			時代区分	戦後前期	
用途	商業施設					
建築諸元	構造	S+RC	階数	2F,B1F	延べ面積	873㎡
設計	菊竹清訓建築設計事務所				主な 受賞歴	1980年第21回毎日芸術 賞受賞:京都信用金庫 の一連の建築に拠る。
施工	大都建設工業					
履歴	移築 増築 (補修)	:補修等あり;ヒアリング及び現地確認に拠る				
	指定 登録 選定					
図面 等	新建築,確認申請書					
参考文献	新建築,総覧日本の建築,もうひとつの京都					
備考						
所見						
別: 円町支店頁に記載						
評価 (5段階)	5				斬新的な作品 <革新性>	
		3			意匠に優れた作品 <意匠性>	
	5				顕著な設計者の展開を示す <作家性>	
	5				技術の発展を例示する作品 <技術性>	
		4			ある時代の建築生産の典型を示す作品 <時代性>	
	5				地域的な特徴を明らかにする作品 <地域性>	
				1	親しく利用されている作品 <継続性>	

京都信用金庫 修学院支店



前面道路(白川通)側の外観 東山の山並みを背景に見る



外観背面 アンブレラ・ストラクチャ 4つによる構成



バンキングスペース内観 約20m(9.6×2)四方の一体空間



アンブレラ・ストラクチャ 黒の各部位が空間を引き締める



外壁回りの空調吹出口 床下エアチャンバーからのエア供給



地階レベルの中庭 バンキングスペースと会議室等をつなぐ



地階の食堂 地上部の階段が天井に反映される



地階会議室(コミュニティスペース) 中庭より自然光が入る

2021 年 2 月 吉日

〇〇〇〇

〇〇〇〇様

公益社団法人 日本建築家協会 JIA 文化財修復塾

副塾長 長瀬博一

tel:090-1488-3130

fax:075-493-2838

mail:nagasehi@nifty.com

＜令和 2 年度 文化庁補助事業（地域文化遺産・情報コンテンツ作成事業）＞
京都 近現代建造物 精選 現地取材に関する御協力御願い

拝啓 時下ますます御清祥のことと御慶び申し上げます。

この度、京都を中心に建築家活動を展開する有志 6 名で、戦中から 2000 年頃までの主要な京都の近現代建造物のリストアップ資料（一次資料）作成と、そこから歴史的価値が高いと思われるものを精選整理したリスト（二次資料）作成並びにその現地取材を進めています。

令和 2 年から令和 4 年にかけて年限別に取材を行い、今年度 令和 2 年は戦中～1973 年までの一次資料（建造物数 約 220 件）から貴殿の建造物を含む 12 件を二次資料として選出しました。

つきましては、詳細な現状視察並びにそれに伴うヒアリングや関係資料の閲覧、内観で差支えなき個所の撮影等の御許可をいただきたく、御願ひする次第です。（当日の参加取材員は 2～5 名の範囲です）

成果品は、カラー刷り冊子に各物件 3～4 頁分とし、外観、内観写真、所見等をまとめ、文化庁や国会図書館、建築学会図書館他主要公立図書館等に納める予定です。又 当方建築家協会等のホームページにも掲載予定です。

担当取材員は全員、歴史的建造物に関する保存・継承の知見を得る年間講習修了者の一級建築士で、設計実務経験も豊富な地元に着した活動中の建築設計・監理専門業者です。各取材員は、既出版物等で著名な作品だけでなく、地域で大切に使われてきた作品を掘り起こす事にも力点を置いています。

敬具

2021年（令和3年3月30日）

編集 （有）長瀬建築研究所（一級建築士事務所）

発行 長瀬 博一，石川 亘

印刷 〒603-8172 京都市北区小山初音町 30-2

TEL 075-491-0848

FAX 075-493-2838

MAIL nagasehi@nifty.com

WEB <http://architect-nagase.com>